

「愛の渦（再演）」 作 三浦大輔

【登場人物】

- 男 1 (フリーター)
- 男 2 (既婚者・会社員)
- 男 3 (ニート)
- 男 4 (工場勤務)
- 男 5 (カップル)
- 女 1 (常連の客)
- 女 2 (保育士)
- 女 3 (大学生)
- 女 4 (OL)
- 女 5 (カップル)
- 店員 1 (店長)
- 店員 2 (店員)

開演前、幕が閉まっていて舞台は見えない。
客入れの音楽が止み…

暗転。

【シーン1】

ユーロビートの音楽がかかる。

テロップ『PM10:50』

明転。

幕が開くと…

そこは、高級マンションの一室。

ロフトがあり、2階の様子は1階のリビングから見えるようになってる。

※今は、ロールカーテン（上手、中央、下手と3つある）が閉まっているため、2階の様子はわからない。
部屋の中は間接照明だけで照らされていて薄暗い。

舞台上手には窓があり、カーテンが閉められている。

上手奥にはトイレのドア。

舞台下手にはバスルームのドア。その横にテレビ。下手奥には2階へ続く階段。

リビング上手側にはソファとテーブル。

テーブルの上には、お菓子、ペットボトル、紙コップ、灰皿が置かれている。

舞台奥、中央はカウンターになっていて、その上にはラジカセが置かれている。

最初にかかったユーロビートはかかりっぱなしで、音はそこから出ている。

※音楽は大音量で流れているので、このシーンの最後まで基本的に役者の台詞は聞き取ることができない。

舞台奥、上手側には玄関へ続くドア。

カウンター奥はキッチンになっていて、キッチンの下手側は従業員室へ続く通路。

女3、ソファに座って俯いている。

その横にはトートバック（中にはバスタオル）。

女1、音楽にのって、踊っている。

店員2、キッチンスペースで携帯で話している。

店員2「その交差点にサンクスありません？…はいはい…ありました？じゃあ、サンクス、背にして右に行ってください。したら、マンションの入り口があるんで、そこ入ってもらって、オートロックになってるんで、301、呼び出して下さい…あ、はい。はい（携帯切る）」

女1、カウンターの椅子に座り、煙草を吸いながら、流れている曲のCDジャケットを手に取って見ている。

女 1「この曲、超好き」

店員2「きっかけよね」

店員2、パラパラを踊り出す。

女1、笑う。

インターホン鳴る。

女3、インターホんに注目。

店員2「(出て) あ、はい。はい。どうぞー(オートロックを開ける)」

女1と店員2、カウンター越しに他愛もない話。

女3、落ち着きがない様子。

しばらくして、部屋のチャイムが鳴る。

店員2、玄関に行く。

女3、玄関の方を気にする。

女1、灰皿を取りにテーブルの方に行く。

女1、女3が緊張しているのを見て微笑み、カウンターに戻る。

しばらくして、店員2に連れられ、男3、恐る恐る部屋に入ってくる。

女3、すかさず携帯を取り出し、メールを打っている素振り。

店員2「場所わかりました？」

男 3「ああ…はい」

店員2「じゃ、会計だけ、先いっすか」

男3、店員2にお金を払う。

店員2、トートバックを男3に渡す。

男3、それを受け取り、リビングに行く。
さりげなく、女3を見る男3。
女3はわざと気にしてない素振りです。携帯をいじっている。

男3、どこに座ろうか迷うが、ソファに座る。
女3、さりげなく、男3を見る。

店員2「(男3に)そこにあるもの、適当に飲んでやって下さい」

男3「あ、はい…」

インターホン鳴る。

男3、女3、インターホンに注目。

店員2「(出て)あ、はい。はい。どうぞー(オートロックを開ける)」

男3、立ち上がって、ジュースを紙コップに注ぐ。
女3、気にしていない素振り。

男3、さりげなく、女3を見る。

しばらくして、女3、男3をさりげなく見る。

店員2と女1、他愛もない話。

女1、爆笑する。

それを見る男3と女3。

男3、女3は店員2と女1が笑い合っているの、それに合わせて、うっすら笑うが、別に会話に加わることもせず…。

部屋のチャイムが鳴り、店員2、玄関に行く。

玄関を気にする男3、女3。

男3をさりげなく見る女1。

しばらくして、店員2、男2(スーツ姿)を連れて来る。

男2、女1と目が合う。

男2「軽く会釈」

女1「無視して」…

男2、店員2にお金を払って、トートバッグを受け取り、リビングに来る。

男2、女3をさりげなく見る。

女3は、まだ携帯をいじっている。

男2、男3と目が合って軽く会釈。

男3も会釈。

男2、どこに座るか迷うが、ソファに座らず、床に座る。

男2、携帯を取り出して、メールをし出す。

女3、男2をさりげなく見る。

店員2「(男2に)そこにあるもん、適当に飲んでやって下さい」

男2「あ、はい…」

男3、助けを求めるように、執拗に男2を見ているが、男2は携帯をいじっていて、それに気付かない。

男2、煙草を取り出し、吸う。

インターホン鳴る。

男2、3、女3、インターホンに注目。

店員2「(出て)あ、はい。はい。どうぞー。(オートロックを開ける)」

灰皿を探す男2。

テーブルの上を見るがないようだ。

男2、立ち上がり、カウンターの方に行き…

店員2「何ですか？」

男2「灰皿、ありますか？」

店員2「(テーブルを見て)ああ…」

店員2、従業員室に行く。

男2の灰、落ちそう。

女1、自分の使っていた灰皿を男2に差し出す。

男2「あ、すみません…」

男2と女1、それ以上会話はなく…。

店員2、なかなか戻ってこない。

そのやりとりを男3と女3はチラチラ見ている。

男2、気まずくて、カウンターから離れリビングに戻る。

戻ったところで女1、男2をさりげなく見る。

店員2、灰皿を数個持って、戻って来る。

男2に一つ渡し、あとはテーブルの上に置き…

店員2「(男3に)あの、シャワー浴びて来てもらえますか？」

男3「え」

店員2「男性の方から、浴びてもらうんで…」

男3「ああ、はい」

部屋のチャイムが鳴る。

店員2「(玄関に向かいながら)お願いします」

男3「(店員2を呼び止めて)あの」

店員2「(立ち止まり)はい？」

男3「シャワーどこですか？」

店員2「(うざそうに)ああ(下手のバスルームのドアを指す)」

店員2、急いで、玄関に向かう。

男3、トートバックを持って、バスルームに向かう。

それを見ている男2、女3。

男3、バスルームのドアを開けた時…

店員2、女2を連れて来る。

女2「一回来たのに、また、迷っちゃった…」
店員2「ここわかりづらいっすよね」

男3、女2の顔をさりげなく見てから、バスルームに入る。

女2、女1と目が合って、軽く手を振る。知り合いのようだ。

女2、店員2にお金を払い、トートバッグを受け取り、リビングに来る。

どこに座ろうか迷っている女2。

男2、自分に会釈するのを待っていたが、女2、男2を無視し、軽く女3に会釈してソファに座る。

店員2の携帯、鳴る。

店員2「(携帯に出て) はい。遅れそうですか？5分くらい？じゃあ、大丈夫ですよ。はい。あ、マンション、オートロックなんて、301呼び出してください。はい。はい(切る)」

女2、3、男2、無言。

インターホン、鳴る。

店員「(出て) はい。はい。(オートロックを開ける)」

男2、おもむろに立ち上がり、テーブルの方に行く。

女2、男2のことを気にしていない素振りで携帯を見ている。

男2も、女2のことを気にしていない素振りで飲み物をくむ。

女2、素っ気なく立ち上がり…

部屋のチャイムが鳴り、店員2、玄関に行く。

女2、玄関の方を気にしながら、トイレに向かう。

男2、飲み物をくみながら、女2を見ている。

女2、トイレに入る直前に、男2の方を見る。

男2、目を逸らす。

女2も、目を逸らして、トイレに入っていく。

店員2、男1を連れて来る。

女3、さりげなく男1を気にする。

男1、店員2にお金を払って…

男1「ぼったくりとかいやっすよ。大丈夫っすか？」

店員2「ない。ない」

店員2、トートバックを男1に渡す。

それを見て、ちよっと吹き出す男1。

インターホン鳴る。

店員2「(出て) はい。はい(オートロックを開ける)」

男1、リビングに来て、部屋の中の光景を見て、また吹き出す。

男1、女1に、にやけながら会釈。

女1も軽く会釈。

男1、テーブルの方に来て…

女3の顔を覗き込む。

男1「…」

女3、気にしていない素振りで、携帯をまたいじる。

店員2「(男1に) 飲み物、飲んでいいっすよ」

男1「ああ、はい」

男1、コップに飲み物を注いでいると、トイレから女2、戻って来る。

男1と女2、目が合い…

女2「…」

男1「(にやけながら会釈)」

女2、男1のことを気にしていない素振りでソファに座る。

男1、飲み物を注ぎながら、女2の顔をじっと覗き込む。

部屋のチャイムが鳴る。

店員2、玄関に行く。

男1、飲み物を注ぎ終わって、女達と離れたところに座る。

女1、振り返り、さりげなく男1を見る。

店員2、男4(汚い作業着を着ている)を連れて来る。

男4、店員2にお金を払い、リビングに来る。みんな、男4に注目。

男4「…」

一同「…」

店員2「(にやけながら) ああ…」

店員2、男4にトートバックを渡す。

男4「あ、すみません」

男4、トートバックを受け取り、どこに座ろうか迷っていると…

店員2と女1、いきなり爆笑する。明らかに男4を見て、笑っている。

男4、店員2と女1の方を見る。
店員2と女1、男4から目を逸らして…

男 4 「…」

インターホン、鳴る。

店員2「(出て) あ、はい。どうぞー。(オートロックを開ける)」

女1は一人で、まだ笑っている。

男4、首を傾げながら座る。

玄関のドアが開いて、店員1が来る。

店員2、インターホンで話しながら、店員1に軽く会釈。

みんな、店員1に注目。

店員1、部屋を見渡して、従業員室に入る。

店員2、コンドームの箱を持って、2階に上がって行く。

店員1、従業員室から出て来て…

店員1「みんな、来た？」

女 1 「あと、一人」

部屋のチャイムが鳴る。

女 1 「あ、これこれ」

店員1、玄関に行く。

女1、キッチンの横に置いてあったトートバッグを持ってリビングに来る。
どこに座ろうか迷っている。

みんな、女1に注目。

女1、結局、ソファアの端の席に座る。

店員1、女4を連れて来る。

女 4 「すみません。遅れちゃって」

店員1「大丈夫ですよ。まだ、始まってないんで」

女4、お金を払い、トートバッグを受け取り、リビングに来る。

男達、女4に注目する。

女4、男達に、にこやかに会釈。

女4、ソファアに座ろうとするが、女2のトートバックが置かれているので座るスペースがない。うざそうにそれを床に置く女2。

軽く会釈して、ソファアに座る女4。

店員1、みんなのところに来て…

店員1「じゃあ、全員集まりましたので始めさせていただきます」

一同「…」

店員1「奥の部屋にいますので、シャワー浴び終わったら声かけて下さい」

店員1、従業員室に去る。

その時、2階のロールカーテンを店員2が開ける。

2階は、怪しい照明で照らされ、ベットが横に3つ並べられている。

ベットとベットの間には、仕切りがある。

(ロールカーテンはそれぞれのベットの前にある)

ベットの横には、台があり、その上に、カゴが置かれている。

そこに、コンドームを補充する店員2。

一同「(2階の様子を見て) …」

その時、バスルームのドアが開き、バスタオル1枚の男3が出て来る。

みんな、注目。

男 3 「(恥ずかしそうに) あの、次…」

男 2 「ああ、はい」

男2、立ち上がり、トートバックを持って、バスルームに向かう。

恥ずかしそうに座る男3。

男 3 「…」

男と女、緊張感が高まり、お互いを意識し合って、気まずい空気。

一同「…」

男1、女4、目が合って…

男 1 「(にやけて会釈)」

女 4 「(微笑んで会釈)」

気まずい間が続く…

暗転。

ユーロビート、そのまま流れて…

【シーン2】

テロップ『1時間前』↓『PM10:00』

明転。

と、同時に、音楽、カットアウト。

女3、ソファアに座っている。

その向かいに店員2。

煙草に火をつけ…

店員1「何で知ったんですか？うちのシステムのこと」

女3「ホームページで…」

店員1「じゃあ、だいたいうちのシステムわかってくれてるよね？」

女3「あ、はい」

店員1「すぐ、この後、参加します？」

女3「あの…まだ参加するかどうか決めてなくて…」

店員1「え」

女3「ちよつと、まだ迷ってて…」

店員1「ああ…」

女3「いろいろ聞いてから決めようと思って…」

店員1「まあ、そうですね…」

店員1、灰皿を取りにカウンターに行く。

店員1「(取って戻りながら) じゃあ、何か質問あったら、どうぞ」

女3「始発の時間まで、やってるんですか？」

店員1「やってますよ。朝5時までだから。始発、動いてるよね」

女3「私、タクシーで帰れないんで…」

店員1「家、どこなんですか？」

女3「川崎です」

店員1「遠いですねー」

女3「ああ…はい…」

間。

店員1「…他は？」

女3「あ、あの…どういう人が来るんですか？」

店員1「サラリーマンもいるし。学生さんもいるし。普通ですよ」

女3「ああ…」

店員1「身分書を提示してもらってますから、変な人は来ませんよ」

女3「年齢は？」

店員1「うちは若い人専門のサークルなんで、20歳から29歳までの方しか来ません。ホームページに書かれてたと思うけど」

女3「料金は？」

店員1「(うざそうに) 単独男性、2万円。単独女性、千円、カップル、5千円。まあ、これもホームページに書かれてたと思うけど」

女3「あ、すみません」

店員1「他にありますか？」

女3「あの…」

店員1「はい」

女3「実際…どんな感じになるんですか？」

店員1「何がですか？」

女3「…始まってからの流れってどうか」

店員1「ホームページに書かれてた通りですけど…」

女3「…すみません」

間。

店員1「(うざそうに) まず…男性、女性、顔合わせますよね。で、順番にシャワーを浴びてもらって、終わったら、(2階を指して) 上のプレイルームでお客様の好きなように、そういうことをしてもらおうと、それだけですよ」

女3「皆さん、そういうことは必ずされるんですか？」

店員1「もちろん。皆さん、そういうことはしていかれますよ。必ず」

女3「気に入らない人がいたら拒んでもいいんですか」

店員1「いいですよ…」

女3「ああ…」

店員1「(強く) ただ…拒み続けてたら、何でここに来たのって話になりますよ」

女3「…」

店員1「あのね…いいですか…ホームページに書かれてたと思いますけど…うちは、セックスがしたくてしたくて、しょうがないって人が集まるサークルなんですわ。わかります？例えば、合コンに行きますよね、でも、みんながみんな、そういうことがしたいとは限らないじゃないですか。そういう行為に至るまでの過程はとも面倒くさいですよ。でも、うちは、そういうよいけいな駆け引き一切なくして、すぐにそういうこと、まあ、エッチなことができるんですわ。そういう同意のもとに皆さん、集まっていますから…」

女3「…」

店員1「それなのに、エッチをしていかれないのはおかしいと思いませんか？」

女3「…」

店員1「僕の言ってること、わかります？」

女3「あ、はい…」

店員1「あなたも、やりたくてやりたくてしよがなく、手っ取り早く誰とでもセックスしたいから、わざわざ…どこでしたっけ？」

女3「え」

店員1「家」

女3「ああ、川崎です」

店員1「ああ…川崎から、いらっしゃったんじゃないですか？」

女3「…」

店員1「違うんですか？」

女3「いや…」

店員1「あの…あなたうちのホームページをご覧になったんですかね」

女3「あ、はい」

店員1「うちのホームページって『乱交パーティ

―』ってキーワードで検索しないと見つからないはずなんですよ。あなたもそれ見て、お問い合わせいただいで、今、こうしてここにいるわけじゃないですか？違いますか？」
女 3 「いや、私は、レディコミ、買ってて…そこに、アドレスが載ってて…」
店員1 「ああ…そうですか…」
女 3 「すみません…」

間。

店員1 「とりあえず、参加してみないとわかんないですよ」

女 3 「…」

店員1 「どうしますか？」

女 3 「…」

店員1 「(煙草を消しながら) あの怖いんなら、やめたほうがいいかもしれない…こつちも無理強いする気はないんで…」

女 3 「…」

店員1 「ごめんなさい。あんま時間ないんで。この後、すぐ始まるから」

女 3 「…」

店員1 「決心が着いたら、また来て下さい。うち、いつでもやってるんで…」

女 3 「や…」

店員1 「ん？」

女 3 「あの…」

店員1 「はい」

女 3 「参加したいんですけど…」

店員1 「…」

女 3 「せっかく来たし…。家、川崎なんで…」

店員1 「…」

間。

店員1 「…大丈夫ですか？」

女 3 「あ、はい」

店員1 「ほんとに大丈夫ですか？」

女 3 「はい」

店員1 「うちの会員さん、ほんとにスケベですよ。必ず、エッチなことにはなりますよ」

女 3 「…」

店員1 「(突然) あなた、エッチ好き？」

女 1 「え…ああ…」

店員1 「(強く) 大好き？」

女 1 「あ、はい…」

店員1 「オナニーしますか？」

女 3 「え？」

店員1 「(強く) オナニーしますか？」

女 3 「あ、いや」

店員1 「(さらに強く) オナニーって何か知ってますよね？」

女 3 「(恥ずかしそうに) あ、はい…します」

店員1 「…」

女 3 「…」

店員1 「や、あなた見てるとちよっと心配になっちゃうんですよ」

女 3 「…」

店員1 「ひやかしてみたい人がいたら、他のお客さまに迷惑がかかっちゃうじゃないですか…」

女 3 「いえ、ひやかしかじやないです…」

店員1 「…」

間。

店員1 「…じゃあ…それを証明してくれませんか？」

女 3 「え…」

店員1 「今、ここで、あなたがスケベだってことを証明して下さい」

女 3 「…」

店員1 「申し訳ないんですが、それを証明してくれないと、店側としてはあなたをこのサークルに参加させることはできません…」

女 3 「…何をすればいいですか？」

店員1 「何でもいいですよ。あなたなりのやり方でこちらに伝えていただければ…」

女 3 「…」

店員1 「本当に参加したいんですよね？」

女 3 「あ、はい…」

店員1 「だったら、それくらいできますよね」

女 3 「…」

長い間。

女 3、恐る恐る、持って来た自分の鞆に手をやる。

店員1 「どうしたんですか？帰るんですか？」

女 3、首を振り、鞆の中を漁り、何かを見つける。

女 3 「…」

女 3、恥ずかしそうに、鞆からリモコンバイブのスイッチを取り出して、テーブルの上に置く。

店員1 「…何ですか？これ」

女 3 「こういう仕事をする人だったらわかりませんか？」

店員1 「わかりますよ。リモコンバイブですよね」

女 3 「…」

店員1 「で、これがどうしたんですか？」

女 3 「(照れながら) や…あの…今、私、パンツの中に、入れてるんですけど…」

店員1 「すごいじゃないですか…」

女 3 「これじゃ、ダメですか？」

店員1 「いいと思いますよ…」

女 3 「…」

間。

店員1 「あの…これ、押していいですか？」

女 3 「え」

店員1 「本当に入ってるか、わかんないじゃないですか」

女 3 「…」

店員1 「確認とらないと…」
女 3 「…」

店員1、スイッチを手に取り…

店員1 「…押しますよ」

店員1、スイッチを押す。

ウィーンと微かにモーター音が聞こえる。
女 3、恥ずかしそうに顔を隠している。

店員1 「(女3の顔をじーっと見て) ほんとうに入ってます?」

女 3 「(うなづく)」

店員1 「入ってるんだったら、もっと声出るんじゃないですか? あんまり気持ちよさそうには見えませんよ」

女 3、微かに喘ぐ。

店員1、女3に寄って行って、顔を覗き込む。

店員1 「確認とりますね」

店員1、いきなり、女3の股を開かせる。

女 3、抵抗するが、店員2、手を押さえつけて…

女 3 「いや」

店員1 「いやじゃなくて。確認とらないと、わかんないでしょ」

店員1、スカートの中を覗き込む。

店員1 「あ、入ってますね」

女 3 「…」

店員1 「気持ちいいですか?」

女 3 「(微かな喘ぎ声)」

店員1 「もっと声出していいですよ」
女 3 「(微かな喘ぎ声)」

店員1 「スケベだったら、もっと声出すんじゃないですか」

女 3 「(微かな喘ぎ声)」

店員1 「そんなことじゃ、スケベだってこと証明できませんよ」

女 3 「(微かな喘ぎ声)」

店員1 「この後、参加できませんよ」

女 3 「(微かな喘ぎ声)」

店員1 「あなた、ドスケベなんですよ。ね」

女 3 「(うなづく)」

店員1 「だったら、もっと大きい声出して、ほら」

女 3、喘ぎ声を、必死に我慢している。

店員1 「声出ないですね…。じゃあ、指入れましょつか。指入れたら、声出ますよね」

女 3 「…」

店員1、女3のパンツに手を突っ込み、バイブを抜き取り、指を入れようとした時…

店員1の携帯、鳴る。

店員1 「…」

バイブをテーブルの上に置いて、電話に出る。

店員1 「はい。もしもし。あ、お久しぶりです。はい。え、ほんとですか? あ、すみません。ちょっと待って下さい」

店員1、電話しながら、従業員室に去る。

女 3 「…」

テーブルの上に置かれたバイブのモーター音が部屋に響く…。

ドアが開いて、店員2、買い出しから帰って来る。
店員2、テーブルの上のバイブに気づく。

女 3、慌てて、バイブとスイッチを鞆に仕舞う。

店員2 「…」

インターホン、鳴る。

店員2 「(出て) あ、はい。はえーよ。まだ、準備できてねーよ。(笑って) わかった。わかった。あ、はい。はい(オートロックを開ける)」

店員1、戻って来て…

店員1 「ちょっと出てくるわ…」

店員2 「え、今からですか?」

店員1 「11時までには戻るから…店、頼むわ」

店員2 「あ、はい」

店員1、去り際に…

店員1 「あ、君、オッケーだから」

女 3 「…」

店員1 「(無感情で) すごくよかったよ…がんばった。がんばった」
女 3 「…」

店員1、出て行く。

それと同時に部屋のチャイムが鳴る。

店員1の声 「はえーよ。ばか。サクラと思われんだろ…」

女1の声 「ああ…ごめんなさい」

女1、部屋に入ってくる。

女3を見て、軽く会釈。

女3も会釈。

女 1 「怒られちゃった…」

店員2 「はえーんだって。くんの。」
女 1 「だってやることないんだもん」

女1、カウンターの椅子に座って…

女1「(女3を指して)初めて?」

店員2「てめで聞けよ」

女1「いや、私も初めてだから…」

店員2「何だ。それ」

女1「いや、今週初めて…」

店員2「つまんねー」

女1、股間を気にしている。

店員2「どしたの?」

女1「何か、この前から、ずっとマンコ痛くてさ」

店員2「(笑う)」

女1「何か、痛がゆいんだけど」

店員2「ちょ見せて。見せて」

女1、スカートをめくり、パンツを脱いで股間を店員2に見せる。

店員2「何かできてんじゃん」

女1「まじで」

店員2「あ、違った。クリトリスだわ」

女1「(アソコに指を入れて) あ、これだわ。穴の奥に何かできてる」

女1、股間を気にしながらバスルームに向かう。

店員2「この前、やってたやつ¹の仕業じゃねーの」

女1「あん」

店員2「いたじゃん。金髪フタ野郎」

女1「や、覚えてないわ」

店員2「おまえ、もしかして、泰葉じゃねーの?」

女1「誰だよ。それ」

女1、バスルームに入る。
そのやりとりを見ていた女3。

女3「…」

店員2、女3を見て…

店員2「何か飲む?」

女3「え」

店員2「どっち?」

女3「ああ」

店員2「え、え、どっち?」

女3「あ、はい」

店員2「飲むのね?」

女3「あ、はい」

店員2、カルピスウォーターのペットボトルとコップを持って、ソファーに座る。

店員2「11時になったら、みんな、来っから」

女3「ああ…はい…」

店員2、コップにカルピスウォーターを注ぐ。

コップは白い液体で満たされていく。

女3、それを受け取り、飲むとした時…

店員2「ここすげーよ」

女3「(店員2を見る)…」

店員2「まじ、やりまくれっからね…」

音楽。

女3、緊張した面持ちでカルピスウォーターをコクゴクと飲む。

店員2、その様子をにやけながら見ている。

暗転。

タイトル『愛の渦』

【シーン3】

テロップ『AMO...00』

音楽、そのまま流れて…

明転。

タオル一枚で、男1、2、3、4、女1、2、4、座っている。
みんな緊張した面持ち。

バスルームから、タオル一枚で、女3、恥ずかしそうに出て来る。

みんな、女3に注目。

女3、ゆっくりと男達の前を横切り、ソファアに座る。

音楽、止み…

沈黙。

男2「(男3に)(従業員室を指して)呼びに行かないんすか？」

男3「え、僕が行くんすか？」

男2「いや…」

男3「え、僕が行ったほうがいいですかね？」

男2「どうですかね」

男3、立ち上がろうとした時、女1、立ち上がり、従業員室に行く。

男3「…すみません」

女1、『終わったよ』と声をかけて戻って来る。

しばらくして、店員2、出て来て…

店員2「あ、終わりました？」

みんな、うなづく。

店員2「店長、電話してるんで。ちょっと待って下さい」

一同「…」

間。

店員2「あ、あと…途中で、カップルさんが参加したって連絡来たんですけど、大丈夫ですか？…ていうか、2、3時間したら来るんで、よろしくお願いします」

女1「え、誰？リョウウタ？」

店員2「違う。違う」

女1「ナオキ？」

店員2「初めて。初めて」

女1「ああ」

店員2「つか、ナオキって超懐かしいんだけど。ツーブロックの奴でしょ？」

女1「そう。そう」

店員2「全然来なくねー。最近」

女1「この前、ドンキで見ただけね」

店員2「まじで。何やってた？」

女1「目覚まし時計とか買ってんの」

店員2「何、早起きしようとしてんだよ。あいつ…」

女1「(笑う)」

店員2「で」

女1「いや、それだけ」

店員2「遊びに行ったりしなかったの？」

女1「しないよ」

店員2「親友でしょ」

女1「やめてよ。まじで」

他のみんなはそのやりとりを、何となく聞いている。

店員1、従業員室から来る。

店員1「…」

店員2「え」

店員1「あん？」

店員2「いや、説明」

店員1「は、まだなの？」

店員2「いや、待ってたんすよ」

店員1「つか、おめー、やれよ」

店員2「何でっすか」

店員1「のど痛いわ。俺」

店員2「(笑って) いいから、お願いしますよ」

店員1、2、笑って…

店員1「えー、今日、男性の方、皆さん初めてなので…あ、女性の方、お二人もそうっすね…。始めるにあたって、いくつか注意事項がございまして…(店員2に) あ、駄目だ。のど痛いわ」

店員2、笑って、店員1に説明するように促す。

店員1「えー、まずですね…男性の皆さん、エッチをする時は必ずコンドームをつけてください…」

男達「…」

店員1「上のプレイルームに、白い入れ物に入ったコンドームと青い入れ物に入ったコンドームが置いてあります。白い方が普通サイズで青い方はLサイズです。見栄はらずに、必ず、最初に普通サイズをつけて、小さかったら、Lサイズをつけてください。じゃないと、女の子の中で、とれちゃうことがあるんでね…」

一同「…」

店員1「で、エッチ終わったら、必ず、コンドームを(ゴムを押さえる仕事)こうやって押さえて、おちんちんを抜いて下さい。たまに、女の子の中に、忘れて行かれる方、いらしゃいますので…」

一同「…」

店員1「で、エッチし終わったら、必ず一度、シヤワーを浴びて下さい。途中で、別の女性とやる

場合も、必ずシャワーを浴びてから、お願いします。えー…」

女 1 「トイレ。トイレ」

店員1 「ああ…トイレに行ったら、必ず、シャワーを浴びて下さいね。じゃあ、最後に…男性の方…」

男 達 「…」

店員1 「女性の嫌がる行為はやめてもらって。女性の意志を尊重して、エッチをして下さい」

男 達、軽くうなづく。

店員1 「じゃあ、朝5時まで、楽しんで下さい」

店員1、従業員室に去る。

店員2 「あつこの部屋に俺らいるんで、何かあったら、声かけて下さいね」

店員2、去ろうとして…

女 1 「ちよっと」

店員2 「あん」

女 1 「このお菓子まずいんだけど」

店員2 「知らねーよ」

女 1 「別なの、買って来て」

店員2 「は、今？」

女 1 「今。今」

店員2 「まじかよ」

女 1 「いいじゃん。いいじゃん」

店員2 「舌打ちして、行く準備」

女 1 「5分で行って来て。はい。ヨーイ」

店員2、渋々、外に出て行く。

女 1 「ちよー！」

店員2 「何？」

女 1 「やっぱ、10分あげるから、向こうのセ

ブン行って来て」

店員2 「やだよ。めんどくせー」

女 1 「サークルK、ろくなお菓子ないじゃん」

女1、店員2が、この場にいなくなるのが気まずくて、執拗に話しかけている。

店員2、去る。

店員がいなくなって一気に場が静かになる。

長い沈黙。

誰も話そうとするものはいない…。

突然、男1、その状況を見て、思わず、吹き出す。

一同、男1に注目。

男1、咳払いをして、「ごまかして…」

女2と女4、顔を見合わせて、軽く笑い合い…

女 4 「どうも…」

女 2 「どうも…」

女 4 「私、今日、初めてで…」

女 2 「ああ…」

女 4 「…そちらは？」

女 2 「私は2回目です…」

女 4 「ああ…」

女 2 「(女3に) え、初めての方ですか？」

女 3 「あ、はい…」

女 4 「(女1に) あの…けっこういらしてるんですか？」

女 1 「え」

女 4 「何か慣れていらっしやるから…」

女 1 「ああ」

女 2 「どれくらい来てるんですか？」

女 1 「週5」

女 4 「すごいですね」

男2と男4、女達を気にしながら…

男 4 「あ、どうも」

男 2 「あ、どうも」

男 4 「初めての方ですか？」

男 2 「あ、はい」

男 4 「僕も初めてで…」

男 2 「ああ、そうですか…」

男 4 「仕事帰りだったんすか？」

男 2 「ああ、はい」

男 4 「大変すね」

男 2 「ああ、まあ」

男 4 「明日は、仕事ないんすか？」

男 2 「ありますよ」

男 4 「え、今日は、朝まで？」

男 2 「ああ、寝ないで行きますんで」

男 4 「大変すね」

男 2 「ああ…まあ」

女 達、その話をさりげなく聞いている。

【1】

女1、テーブルの上のジュースをコップに注いでいる。

女2、女4、男達の会話を気にしながら…

女 4 「(女1に) これ飲んでいいんですよ」

女 1 「うん。飲み放題」

女 2 「私も飲もうかな。喉乾いちゃった…」

女 4 「(女3に) 飲みますか？」

女 3 「あ、大丈夫です…」

女2、女4、コップにジュースを注いで飲む。

【2】

女達を気にしながら…

男 4 「(男3に) あの…すみません」

男 3 「あ、はい」

男 4 「ここは、初めてですか？」
男 3 「あ、はい」
男 4 「今日は、朝まで？」
男 3 「ああ、まあ、一応……」

男1は男達と会話するのあまり興味がなく、しきりに女達の方を見ている。

【1】【2】同時進行。

しばらく、女と男、別々に会話する。

男も、女も、お互いを意識しているが、わざと気にしていない素振り。

その状態がしばらく続いて……

女 1 「あ、そういえば、さっき、来る時、そこでジョイマン見た」

女 2 「え、ほんとですか！」

女 1 「(食いつきがよすぎるのに引いて) ああ……うん……」

女 2 「私、ジョイマン、超好きなんですよ……」

女 1 「ああ……そうなんだ」

女 4 「メガネの人、可愛いですよ」

女 2 「え、ラップしてました？」

女 1 「や、してない」

女 2 「ああ……」

女 4 「いつも、してるわけじゃないんですね……」

その話を聞いていた男達。

男 4 「(男2に) あの……お笑いとか、『ご覧になる方ですか?』」

男 2 「ああ、少し……」

女達、男4に注目。

【1】
男 4 「ジョイマンって人気あるみたいですね」

男 2 「そうみたいですわね」
男 4 「踊ったり、韻踏んだりしますよね……」
男 2 「……そうですね」

【2】

女 2 「好きなお笑い芸人さんとかいらしゃいますか?」

女 4 「私、そんなに詳しくなくて」

女 2 「ああ……」

女 4 「すみません……」

【1】【2】同時進行。

女 2 「(女1に) 好きなお笑い芸人さんとかいらしゃいますか?」

女 1 「ああ……誰だろう……」

それを聞いていた男4。

男 4 「(女達を意識しながら、男2に) 僕、今、注目してるお笑い芸人が一人いて……」

男 2 「え、誰ですか?」

男 4 「狩野英孝なんですけど」

男 2 「(よく知らないが) ああ……」

男 2 「あの人、面白いですよ……」

男 2 「(よく知らないが) ああ……面白いですね」

女達も、男達の方をさりげなく気にして、その会話を聞いている。

男 4 「あのギャグ最高ですよ」

男 2 「え、どんなのですたっけ?」

男 4 「(女達を意識して) ラーメン、イケメン……(つけめんを忘れて)」

女2、4、顔を見合わせて、苦笑。

男 4 「(焦って) あと『スタッフ』ってあれ、すげー面白くないですか?」

男 2 「え、何て言ったんですか?今」
男 4 「スタッフ……」

男 2 「え?」

男 4 「(声はって) スタッフ」

男 2 「ああ……」

女2、4、苦笑。

女 1 「でもさ……狩野英孝とかは……絶対すぐ消えるよね」

女 4 「まあ、一発屋系ですよ……」

女 2 「もって、あと、半年かなって……」

それを聞いていた男4。

男 4 「(男2に) まあ、浮き沈みの激しい業界ですからね……」

男 2 「そうですね……」

男 4 「僕もそこまでは好きじゃないんですけど……」
男 2 「ああ……そうなんですか……」

女達、引き続き、お笑いの話。

女 2 「去年のM1って観ました?」

女 1 「や、観てない」

女 4 「私も仕事で観れなくて……」

女 2 「ああ……や、あの……ノンスタイルってコンビが優勝したんですけど、私、どうしても納得いかなくて……」

女2、偉そうに、M1について、熱く語る。

女3は相変わらず、話に加われず、黙っている。

男達、それをさりげなく聞きながら……

男 4 「最近、どうですか?」

男 2 「え」

男 4 「不景気、大変じゃないですか?」

男 2 「そうですね…」

男 2、4、どうでもいい、世間話。

男 3 は相変わらず、隅の方で黙っている。

その時、男 1、状態を起こし、さりげなく、女達の方に寄って行く。

男 2、3、4、それに注目。

女達も、それをさりげなく気にする。

女 2 は、男 1 が近寄って来るのに気づいているが、気にしない素振り。M1 の話。

男 1、女達の近くに来て、女 2 の話しを真剣に聞いている。

男 2、4 も、さりげなく、男 1 の後ろについて、女達の方に寄って行く。

女 2 「(男 1 を意識しながら) 私は、ナイツってコンビを応援してて…」

男 1 「(うなづく)」

女 2 「絶対、優勝だと思ったんですよ…」

女 1 「(男 1 を意識しながら) ああ…そうなんだ…」

女 4 「(男 1 を意識しながら) 残念でしたね…」

男 1、話しに割り込み…

男 1 「俺的には、優勝、オードリーかなと思っただけですけど…」

女 2 「…」

間。

女 1 「え、どうなの？」

女 2 「(男 1 を無視して) 笑い飯は、今年は今いちで…」

男 1 「でも、最後の西田の一言はやっぱりなかったですか? 『思ってたんと違うー!!』って」

女 2 「…」

間。

女 1 「え、どうなの？」

女 2 「(男 1 を無視して) あと、ザ・パンチはひどくて…」

女 2、男 1 を無視して、引き続き、女 1 とお笑い話。

男 1、苦笑。

それを見ていた女 4。

女 4 「思ってたのと違ったんですか？」

男 1 「あ、はい…」

女 4 「私、今年は観てなくて…」

男 1 「ああ…そうなんですか…」

間。

男 1 「あ、どうも」

女 4 「え、あ、どうも」

男 1 「初めての方っすか？」

女 4 「あ、はい」

男 1 「俺も初めてで…」

女 4 「ああ…よろしくお願いします」

男 1 「ここ、すげー、アウェイ感、感じますよね」

女 4 「(笑って) そうですね…」

男 1 「じゃあ、初めて同士で同盟とかくみません？」

女 4 「(笑って) 初めて同盟？」

男 1 「そう。そう」

男 1 と女 4、二人だけで話し出す。

女 3 を挟んで、二人が話しているので、女 3 は気まずい。

男 2、4 は、女達と話そうとするが、なかなかできな。

男 2、女 2 と目が合うが、素っ気なく逸らされ…

男 2 「…」

【1】

男 2、女達と話すのを諦めて、男 4 と話し出す。

男 4 「お菓子、何があるんですか？」

男 2 「色々あるみたいですけど…」

隅にいた男 3。

男 4 「お菓子、食べますか？」

男 3 「ああ…」

男 2 「もし食べたかったら取ってきますけど」

男 3 「大丈夫です…」

男 2、3、4、どうしようもなくなり、うだうだ…

【2】

女 1、2 は、男 1 と女 4 が話しているのを、ちらちら気にしながら、お笑いの話。

【3】

男 1、女 4、段々打ち解けて来て…

男 1 「つーか、誰かに似てますよね」

女 4 「え、私ですか？」

男 1 「あのグラビアによく出てる」

女 4 「え、誰ですか？」

男 1 「あれ、名前出て来ない…」

女 4 「あ、や、私も、入って来た時から思ってたんですけど…」

男 1 「あ、はい」

【1】【2】【3】同時進行。

女 4 「(照れながら) 私の元彼にすこい似てるんですよ」

男 1 「大きな声で」まじっすか!」

一同、二人に注目。

男 1、女 4、みんなが注目したので、照れながら、笑い…

男 1 「(小声で) それは、OKラインいってることですよね」

女 4 「(小声で) そういうことになりますね…」

女 1、女 2、また話し出す。

男 2、4 も話し出す。

男 1 と女 4 はいい雰囲気になってくる。

みんな、それには気付いているが素知らぬ顔で会話。

その状態がしばらく続いて…

【1】

男 4、立ち上がり、トイレに行く。

男 1 と女 4 以外、注目。

女 1 と女 2、顔を見合わせて…

女 2 「(女 1 に) え、あれ、いいんですか?」

女 1 「ああ」

女 2 「あれですよね。『また(シャワー浴びなきゃ)』になりますよね」

女 1 「そうだね…」

女 1、2、会話。

【2】

残った男 2 と男 3、どうでもいい会話。

男 2 「(周りを見渡して) ここはデザイナーズマンションですかね?」

男 3 「僕はわかんないです…」

男 2 「ああ…」

【3】

男 1 「(手招きして) ちょっと、いいですか?」

女 4 「あ、はい…」

男 1、女 4 の耳元で…

男 1 「あの…もしよかったら…上に行きませんか?」

女 4 「…」

男 1 「ダメっすか?」

女 4 「いえ、私でよければ…」

二人、照れ笑い。

【1】【2】【3】同時進行。

男 1、女 4、上に行くかどうか戸惑っている。

男 1 は、女 4 に、女 1 に聞いてみるように、目で合図。

女 1 と女 2 の会話が一瞬止まった時…

女 4 「(女 1 に) あの!」

みんな、女 4 に注目。

男 1、女 4、みんなが注目したので照れ笑い。

女 4 「あの…これって…勝手に…あれしても大丈夫なんですか?」

女 1 「え」

女 4 「いや、え、あの…先に…上に行ってもいいんですか?」

女 1 「あ…ちょっとわかんない」

男 1 「いや、まじで。まじで」

女 1 「だからわかんないって」

男 1 「そういうのいいから、まじで教えて」

女 1 「ほんとにわかんないんだって」

男 1 「(いきなり切れて) な、わけねーだろ。」

おめー常連だろ。わかんじゃん」

女 1 「いや、いいと思ったらいいじゃん」

男 1 「意味わかんねーから」

女 2 「や、あの、この前の時はなんですけど、男の人同士で話し合っただけで…」

男 2・男 3 「…」

男 4、トイレから出て来る。

みんな、男 4 に注目。

男 4 「…」

男 4、場の気まずい空気に気づいて、そーっとさつき座ってた所に戻る。

男 1 「(女 2 に) つーか、何もしてねーじゃん、こいつら」

女 2 「ああ…」

男 1 「何で、話しかけたりしねーの」

女 2 「私は、わかんないですけど…」

男 1、男達の方を見て…

男 1 「先、いいっすか?」

男 3 人、顔を見合わせて、頷き…

男 4 「(わざとさらっと) あ、いいっすよ」

男 1 「ああ、そうっすか…」

男 1、女 4、行くのをまだためらっている。

女 1 「とつとと、行ったら」

女 4 「あ、はい」

男 1、女 4、照れながら立ち上がり、のろのろと 2 階に向かう。

途中で、男 1、テーブルに戻り…

女 4 「え、何、何」

男 1、携帯とタバコを取り…

女 4 「ああ…」

二人、2階に上がって行き、プレイルームの様子を見て、吹き出す。
みんな、それを下から見ている。
二人、それに気づき…

男 1 「すげーガン見されてるんですけど…」

女 4 「(笑う)」

男 1、女 4、上手のベットに行き、ロールカーテンを閉める。ベットの様子は見えなくなる。

間。

カーテンの向こうから、二人の笑い声が聞こえてきて…

男 1 の声 「ちよ、何だよ。あの空気。まじ、きまじーよ」

女 4 の声 「いいんですよね。来ちゃって」

男 1 の声 「いいでしょ」

女 4 の声 「みんな、何で来ないんですかね」

男 1 の声 「まじ終わってるよ。あいつら」

それを聞いていた一同。

一 同 「…」

店員 2、買い物袋を持って、帰ってくる。

女 1、寄って行き、カウンター越しに店員 2 と会話。

店員 2 「(買って来たお菓子を出して) これでいい？」

女 1 「何これ。センスないわ」

店員 2 「は」

女 1 「首だわ。あんた」

店員 2 「じゃあ、自分で買ってこいよ」

女 1 「私、店員じゃないもん」

女 2、話す人がいなくなつたので、店員 2 と女 1 のやりとりを、ぼんやり見ている。
男 2、意を決して、女 2 の方に寄って行く。
それを見ている男 4。

女 1、お菓子を持ってテーブルの方に行く。
テーブルに向かう男 2 と目が合い…

女 1 「…」

男 2 「…」

女 1、にやけながら、テーブルにお菓子を置く。

女 2 「(男 2 を意識しながら) 新しいの買ってきたんだ？」

女 1 「あ、食べて」

女 1、またカウンターに行く。

女 2 は男 2 の存在を無視して、女 1 と店員 2 の会話を聞いている。

女 1 「この前の写真見せて」

店員 2 「あん」

女 1 「リョウタのアナルにパイプぶち込んだじゃん」

店員 2 「つか、とつとと(セックス) やれよ」

女 1 「いいから。いいから。見せて。見せて」

女 1、店員 2、従業員室に行く。
女 2、二人がいなくなつたので、しょうがなくテーブルの方にまた視線を戻し、素知らぬ顔でお菓子を食べる。

男 2 「あ、あの…」

女 2 「(わざとらしくびくくりして) あ、はい」

男 2 「けっこう、ここは来られるんですか？」

女 2 「や、私は、2 回目ですけど…」

男 2 「ああ…」

女 2 「はい」

男 2 「あの…お仕事、何されてるんですか？」

女 2 「え、そっちは？」

男 2 「僕は、普通のリーマンです」

女 2 「あ、そうですか」

その時、男 2、バスタオルがはだけ下半身が露になる。

男 2 「あ、やべ」

女 2 「(吹き出す)」

男 2 「すみません」

女 2、笑いを堪えようとしますが、また吹き出し…

男 2 「え、面白かったですか？」

女 2 「ちよっと今、見えちゃって…」

男 2 「ほんとすみません…」

女 2、笑っている。

男 2 「でも、何かよかったです…」

女 2 「え」

男 2 「初めて笑つてるとこ見れました…」

女 2 「ああ…」

男 2 「いや、さつきからずっと、すごい陰い顔されてたんで…」

女 2 「ていうか…そっちも…」

男 2 「や、あの…もう、正直に言いますと。わざと素っ気なくしてたっていうか…」

女 2 「(微笑して) ああ」

男 2 「どうしていいか、わかんなくて…」

女 2 「(笑って) や、あの…私もです」

男 2 「(笑って) ああ…そっすか…」

女 2 「ていうか…何回か、目合いましたよね」
男 2 「わざとそらしたりしてました…」
女 2 「あ、そうそうそう。私も…」

そのやりとりを羨ましそうに見ている男3、4。

女 2 「(隣を指して)座りますか？」

男 2 「あ、いいですか…」

男2、ソファアに座る。

男 2 「いや、すげー緊張してて。今、すげーが
んばって話かけたんですよ」

女 2 「あ、がんばってるなーって思っていました
…」

男 2 「(笑う)」

女 2 「(笑う)」

男 2 「あー、けどほっとしました…」

女 2 「や、あの…もっと早く、話かけて下さい
よ」

女2、さりげなく男2の膝に手を置く。

男2、それを意識して…

男 2 「いや、すげーかつこ悪いっすね」

男2、さりげなく、女2の手を握る。

女1、従業員室から戻ってくる。

女1、二人を見て、ソファアに座ろうとしたが、
やめてカウンターの椅子に座る。

女 2 「(気まずくて)…このお菓子おいしいね」

女 1 「ああ…そう…」

女2、ジュースをくもくとするが、男2と手をつ
ないでいるため、くみづらい。

女 2 「ちょっと、ごめんなさい」

男 2 「あ、すみません」

男2、手を離す。

その時、プレイルームから、女4の喘ぎ声が聞こ
えて来る。

男1と始まったようだ。

一同「…」

女1、おもむろに立ち上がり、階段を上がって、

二人の様子を見に行く。

2階で男1と女4のセックスを腕を組みながら
見ている女1。

女4の喘ぎ声が部屋に響く。

気まずい間

女 2 「あの…」

男 2 「はい」

女 2 「…上、行きませんか？」

男 2 「ああ…」

女 2 「だめですか？」

男 2 「いや、だめじゃないです…」

女 2 「ああ…」

男2、若干、行くのをためらっていて…

女 2 「あの…」

男 2 「はい」

女 2 「人から、見られるのとか平気ですか？」

男 2 「え」

女 2 「ダメだったら、みんなに言っておいた方
がいいと思うんですよ…見られちゃうんで…」

男 2 「ああ…大丈夫です」

女 2 「あ、そうですか…」

男 2 「ああ…はい」

女 2 「え」

男 2 「ん？」

女 2 「(いきなりため語で)じゃあ、行こう」

男 2 「ああ…はい」

男2、女2、立ち上がると…

女1、2階から戻って来る。

女1、立ち上がっている二人を見て、カウンターの
椅子に座る。

女 2 「(気まずくて)…このお菓子、やっぱりま
ずいかも」

女 1 「(別のお菓子を出して、テーブルに向か
おうとして)じゃあ、違うの食べる？」

女 2 「(咄嗟に)ああ、いい」

女 1 「あ、そ…」

男2と女2、顔を見合わせて、上に向かおうとす
るが、女3が邪魔で、女2はソファアからなかな
か出れない。

女3、結局、一回、席から外れて、道をあける。

女 2 「あ、ごめんなさい」

男2は男3、4を気になっっているが、わざと素っ
気なく、前を取り過ぎ、上に向かう。

女2は女1を気にして、顔を合わせないようにし
て上に向かう。

二人、2階に着き、中央のベットに行き、ロール
カーテンを閉める。

男3、4、女1、女3が残る。

女4の喘ぎ声、さらに激しくなる。

それに合わせて、男4、何となく、動き出す。

男3は、何もできず、それを見ている。

男4、女3に寄って行く。

二人、目が合う。

二人、目が合う。

二人、目が合う。

二人、目が合う。

二人、目が合う。

二人、目が合う。

二人、目が合う。

二人、目が合う。

二人、目が合う。

女 3 「目を逸らす」…」
男 4 「…」

男 4、しよががなく、カウンターの女1に向かって行く。

女1、気づかない。

女4の喘ぎ声、絶頂に達する。

沈黙になった瞬間…

男 4 「あの…」

女 1 「(男4に気づき)ん」

男 4 「上に行きませんか？」

女 1 「え」

男 4 「だめ？」

女 1 「や…」

男 4 「どっち？」

女 1 「…いいよ」

男 4 「(男3を見て、勝ち誇ったように微笑む)」

男 3 「…」

男 4、女1の手を取ろうとして…

女 1 「あのさ…」

男 4 「はい」

女 1 「トイレ行ったでしょ…シャワー浴びてよ」

男 4 「え」

女 1 「おしっこ、ついてんじゃん」

男 4 「ああ…すみません」

男 4、頭を抱えて、バスルームに入って行く。

女2の喘ぎ声が聞こえてくる。

女1、階段を上がり、またブレイルームを見に行く。

男 3、女3、二人きりになる。

男 3 「…」

女 3 「…」

二人、お互いを意識しているが、何もできない。

長い間。

男 3、意を決して、ゆっくりと立ち上がり、恐る

恐る、女3に寄って行く。

女3は緊張した面持ちで、それを待っている。

男 3 「あの…」

女 3 「…」

男 3 「は、初めてですか？」

女 3 「ああ…はい」

男 3 「僕も初めてで…」

女 3 「ああ」

男 3 「よく来るんですか？ここ」

女 3 「あの…初めてです」

男 3 「ああ…」

二人、ぎこちない。

男 3 「ごめんなさい。声かけるの遅くなっちゃ

って」

女 3 「いや、私、可愛くないから…。嫌なのか

なと思って…」

男 3 「や、違います。僕がびびってただけなん

で…」

女 3 「ごめんなさい。あんま可愛くなくて」

男 3 「いや、そんなことないです…」

女 3 「すみません…」

男 3 「や、こちらこそ、すみません…」

二人、しばらくお辞儀をし合って…

男 3 「(ソファを指して) そちらに座っても

いいですか？」

女 3 「(うなづく)」

男 3、のそのそとソファに向かう。
それをじっと見ている女3。

男 3、ソファに座ろうとした瞬間、女2の喘ぎ

声、激しくなる。

男 3、気になって、上を見上げる。

その瞬間、いきなり、女3、男3をソファに押

し倒し、激しく求める。

それは見るからに、あまり経験がない女の様相。

男 3 「(啞然として) ちょ、ちょっと」

女 1、降りて来る。

女 3、気にせず、男3の手を取り、おっぱいを触

らせる。

女 3 「きもちーですか？きもちーですか？」

女1、二人の様子を見ながら、カウンターで、煙

草を吸う。

女2の喘ぎ声、さらに激しくなる。

女3、今度は、男3の股間をまさぐり、男3の上

に馬乗りになる。

女2の喘ぎ声、絶頂に達する。

男 3 「あの！」

女 3 「(動き止まり)…」

男 3 「上に行きませんか？」

女 3 「:(うなづく)」

二人、恥ずかしそうに立ち上がる。

女3、男3の手をしっかりと握る。

女 3 「…」

男 3 「(うなづく)…」

二人、手をつないだまま、階段を上がって行く。

シャワールームから、男4、出て来る。

男3と女3が上に行くのをじーっと見ている。

あー！ちんぽイイ！ちんぽイイ！

男3、女3、下手のベットに行く。

男1、女4、上を見上げる。

男3、下で見ている男4と目が合い、ロールカーテンを閉める。

音楽。

男4「…」

暗転。

女1、カウンターで煙草を吸っている。

男4「あ、あの…」

女1「ん」

男4「シャワー浴びましたけど」

女1「ああ…」

男4「上、行きませんか？」

女1「これ吸ってからでいい？」

男4「ああ…はい…」

男1と女4、汗だくで2階から降りてくる。

男4「(気まずい)…」

女1、煙草を消して男4に何も言わず、そそくさと2階に上がって行く。

男4、慌てて、それについて行く。

男1と女4は、不審そうにそれを見て…

男4と女1、プレイルームに消える。

ソファアに座って、ぼーっとする男1、女4。セックスが終わった脱力感。

しばらくして、女3の喘ぎ声の上から聞こえてくる。

女3の声「あん…あん…あん…」

喘ぎ声、段々、高まって行き…

女3の声「(とんでもない叫び声)あー！あー！あー！

【シーン4】

テロップ『AM1…30』

明転。

プレイルームのロールカーテンは全部、開いている。

男1、2、4、女1、2、3、4、リビングにいる。

みんな、一回戦を終えた疲れで、まったりしている。

微妙な空気。

女4、何かを探している。

みんな、女4を気にして…

女4「あの…ピンクの携帯知りませんか？」

女2「え、上じゃないですか？」

女4「あ、ちょっと見て来ます」

女4、2階に行く。

店員2、従業員室から出て来て…

店員2「(さらっと)もう、みんな、やりました？」

一同「…」

店員2「(反応がないので)え」

一同「…」

店員2「(女1に)やったの？」

女1「…やったよ」

店員2「え、おまえ、誰とやったの？」

女1「(男4を指して)これ」

店員2「(にやけて) ああ…」

女1「え、何？」

店員2「すげーじゃん。グッジョブだよ」

女1「ああ…」

男4「…」

店員2、トイレに入る。
女4、携帯を持って、戻って来て…

女2「あ、ありました？」

女4「(にやけて) あ、はい」

女2「え、どうしたんですか？」

女4「何か、上…熱気匂いが…すごかったです…」

女2「(苦笑いして) ああ…」

みんな、何となく気まずくなり…

長い間。

男2「(沈黙に耐えきれず) あの…」

一同「(男2に注目)」

男2「みなさん、何されてる方なんですか？」

一同「…」

男2「僕は神田で食品関係の営業やってるんですけど…」

一同「…」

男2「(みんなが無反応なので) 聞いちゃまずかったですか…」

女4「や、あの、私も普通のOLやってて…」

男2「ああ…」

女4「同じような感じですか？」

男2「…そうですね」

女4「(女2に) え、何されてる方ですか？」

女2「や…あの…私は、保母さんです…」

男2「…」

女2「え、見えませんか？」

男2「いや、…ういうと…だど…ちょっと…ね」

女2「でも、私、同じ保育園の人に誘われて、ここ来たんですよ」

男2「(苦笑い) ああ…」

女2「(男1に) え、何されてる方ですか？」

男1「俺は、まあ、フリーターっすね」

男2「どういった仕事を？」

男1「ティッシュ配りとアムウェイ、やってま

す」

男2「…大変ですね」

男1「まあ…はい…」

女4「(男4に) 何されてる方ですか？」

男4「僕は…蒲田の工場で働いてます…」

男2「え、何をつくってるんすか？」

男4「携帯なんすけど」

女4「えー、携帯作ってるんですか。すごーい！」

男4「や、あの枠の部分だけなんですけど」

女4「ああ…。や、でも、すごいですよ。携帯ですし…」

男4「…」

女2「(女3に) え、学生さんですか？」

女3「あ、はい…」

女2「大学生？」

女3「あ、はい…」

女4「(どの大学なんですか?)」

女3「ああ…(言うのをためらう)」

男1「(いきなり) 大妻っすか？」

女3「や、違います…」

男1「ああ…」

女3「…」

【1】

男2「(男3に) え、で？」

男3「…はい？」

男2「お仕事は？」

男3「あ、や…」

男3、なかなか言わない。

【2】

女4「(女1に) え、何されてるんですか？」

女1「え」

女4「お仕事？」

女1「(無反応)…」

【1】【2】同時進行。

女 4 「あの…お仕事は？」
女 1 「(強く) や、してないけど…」

みんな、女1に注目。

女 4 「ああ…(ざらっと) そうですよね…」

間。

女 2 「(体を擦りながら) …何か寒くないですか？」

女 4 「(タオルを指して) これだけですからね」
女 2 「風邪引いちゃいそう…」

女 4 「気をつけて下さいね。今年、インフルエンザ、流行ってますから」

男 2 「あ、僕、この前までかかってましたよ…」

女 4 「や、私もなんです…」

男 2 「何か、今年のとって咳が止まらないですよね」

女 4 「ああ…はい…。ずっとマスクつけてました」

男 2 「今のマスクって立体的になってますよね」

女 4 「口紅つかないようにですよね」

男 2 「発明した人、すごいんですか？」

女 4 「頭いいですよね」

男 2 「え、タミフルは飲まれました？」

女 4 「ああ…はい」

男 2 「あ、でも、タミフル飲んでも効かないウイルスもあるらしいですね」

女 4 「鳥インフルエンザとかですよね」

男 2 「そうです。そうです」

女 4 「これからどうなっちゃうんですかね」

男 2 「ちよっと、怖いですよね」

男2、女4、どうでもいいインフルエンザ話。何となく、その話を聞いてうなづいている女2。

女 4 「(女2に) インフルエンザは大丈夫でした？」

女 2 「あ、私は…はい…」

女 4 「(女3に) え、インフルエンザは？」

女 3 「大丈夫ですよ…」

女 4 「ああ…」

男 2 「(男1に) インフルエンザ、かかりました？」

男 1 「あ、別に、大丈夫ですよ…」

男 2 「(男4に) え」

男 4 「あ、僕、工場で、予防接種したんで…大丈夫ですよ…」

男 2 「ああ…」

男2、男3に聞こうとするがやめて…

女 4 「(女1に) 大丈夫でしたか？インフルエンザ」

女 1 「(強く) どうでもよくない。そんなこと」

女 4 「…」

店員2、トイレから出て来て…

店員2 「あ、パイプとか電マとかあるんで、使いたかったら言って下さいね」

一 同 「…」

店員2 「(女1に上を指して) ローション、まだあった？」

女 1 「あったよ」

店員2、従業員室に去る。

気まずい間。

女 4 「(気まずさに耐えきれなくなつて) や、あの、やつぱり、あれですよね。何かこういうところだから、もつと…何だろう…そういう話をしたほうがいい感じですよね？」

一 同 「…」

女 4 「え、え？」

一 同 「…」

女 4 「(男2に) え、違います？」

男 2 「あー、や、でも、こういう場所だからと

いって、そういう話ばかりしても…ね」

女 1 「え、ほんとそう思ってるの？」

男 2 「え」

女 1 「それ、おかしいよ」

男 2 「…」

女 1 「おかしーって」

男 2 「や…」

女 1 「(強く) だって、ここ、スケベな人しか

ここ来ちゃいけないんだよ」

また、気まずい間。

女 4 「(女2に) じゃあ、どうしたらいいんですか？」

女 2 「え、や…。(女1に) え、どうすればいいの？」

女 1 「私に聞かないですよ」

女 2 「…」

女 4 「(すがるように女2を見て) …」

女 2 「え、じゃあ、あの、何か…あれ…エッチ

な話でもしましょうか？」

一 同 「…」

女 2 「(みんなが無反応なので慌てて) え、え、あれなんですよね、みなさん、スケベなんですよね。(男1に) ね」

男 1 「はい。バリバリスケベですよ…」

女 2 「(男4に) スケベですよね」

男 4 「はい。スケベです。つーか、さっきから、

話、つまんないと思ってたんで…」

女 2 「私もですよ…」

男 2・女 4 「(気まずい) …」

女2、吹っ切れて…

女 2 「あの…保母さんで…スケベな人が多いって一般的に言われているじゃないですか。実際、そうですね。もちろん、私もすごいスケベなんです。オナニーとかもガンガンしますし」

一 同「…」

女 2 「え、しませんか？」

女 4 「…」

女 2 「(女4に) え、え」

女 4 「(恥ずかしそうに) いや、私も一人エッチ大好きです…」

女 2 「(笑う)」

女 1、楽しそうに、話しを聞いている。

女 2、さらにのっけてきて…

女 2 「(男1に) あの…」

男 1 「あ、はい」

女 2 「さっきやってるとこ見てたんですけど」

男 1 「ああ…そうっすか」

女 2 「…あそこ大きいですね」

男 1 「ああ…どうも…」

女 2 「何センチくらいあるんですか？」

男 1 「いや、わかんないっす。測ったことないんで」

女 2 「ああ…」

男 1 「はい」

女 2 「あの…」

男 1 「あ、はい」

女 2 「…できれば…あの…次…やりたいんですけど…」

男 1 「(にやけて) ああ…」

女 2 「大丈夫ですか？」

男 1 「え」

女 2 「私とやりたいかと思えますか？」

男 1 「や、あの…」

女 2 「…」

男 1 「(スケベ面で) めっちゃやりたいです」

男 1、女 2、笑い合っ…

女 2 「あの…何かしてほしいことかありますか？」

男 1 「え」

女 2 「言ってくれたらやりますけど…」

男 1 「え、そっちは？」

女 2 「(いきなりため語で) 言ったらやってくれる？」

男 1 「やるよ」

女 2 「じゃあ、じゃあ、あの…(恥ずかしそうに) 潮を吹いたことないんで、吹いてみたいんですけど…」

男 1 「(笑う)」

女 2 「ダメ？」

男 1 「いいよ」

男 1、女 2、下品に笑い合う。

男 2 「(いきなり) あの…次いいっすか？」

女 4 「え」

男 2 「ぶっちゃけ、僕、あなたみたいな可愛いコとやったことなくて」

女 4 「そんな…」

男 2 「ほんと可愛いっすよね。やっぱアソコも可愛いっすか？」

女 4 「(照れ笑い) えー？」

男 2 「いいっすか。いいっすか。次」

女 4 「あ、はい」

男 2 「まじっすか。僕、がんばります。何でもしますよ」

女 4 「よろしくお願いします」

男 1、女 2も笑って…

男 2 「(男1、女2に) あの…さっきはすみませんでした。僕もただのスケベ野郎なんで…」

和やかな雰囲気。

女 3、俯いている。

女 2、それに気づいて…

女 2 「え、大丈夫？」

女 3 「…」

女 4 「え、え、もしかして、ひいてます？」

女 3 「あ、いや…」

一 同「…」

女 3 「あの…ほんとに正直にいいますと…そう見えないかもしれないですけど…。自分でも変だなんて思うくらい、今、すごい、楽しいんですね」

一 同「…」

女 3 「あの…だから、大丈夫です…」

一 同「…」

女 3 「大学の友達とかも興味あるくせに、かつこつけてそういう話全然しないし。(いきなりきつい口調で) つーか、ほんとあいつらうざいから」

一 同「…」

女 3 「あ、すみません…」

女 3、隅で黙っている男3に…

女 3 「今、楽しくないですか？」

男 3 「…」

みんな、男3に注目。

男 3 「(みんなの視線を感じて) …や、あの、僕も正直に言いますと…」

一 同「…」

男 3 「僕、今まで、仕事をしたことがなくて…。今日も、田舎の親が布団買いなさいって、2万円振り込んでくれたんですけど。そのお金を下ろして、ここに来てて…」

一 同「…」

男 3 「でも、来てほんとによかったと思ってます」

一 同「…」

男 3 「僕も楽しいです。すく…」
女 3 「…」

みんな、ちよつとしんみりして…

女 1 「いきなり男4に) あのさ…」

男 4 「あ、はい」

女 1 「あんたさ…初めてだったの？」

男 4 「え」

女 1 「違うの？」

男 4 「や…」

女 1 「やり方めちやくちやだったからさ」

男 4 「…」

女 1 「ちよつと、まじで言ってくんない」

男 4 「いや…」

女 1 「まじで。まじで」

男 4 「…」

みんな、男4に注目している。

男 4 「すみません…初めてでした…」

女 1 「(笑う)」

間。

男 4 「(女1に) あの…もう1回、やってもいいですか？」

女 1 「ああ…」

男 4 「コツつかんだんで。次はもうちよつとがんばります…」

女 1 「あ、はい…よろしく願います…」

男 4 「(男3に) すみません。また同じになっちゃいますけど…」

男 3 「あ、いや…」

男3と女3、目が合って…

男 3 「…大丈夫ですか？」

女 3 「あ、はい…」

男 3 「すみません…」
女 3 「…あの…一っだけお願いがあるんですけど…」

男 3 「あ、はい…」

女 3 「(恥ずかしそうに) あの…やってる時、名前呼んでほしいんです…」

男 3 「ああ…」

女 3 「だめですか？」

女 3 「いえ…」

男 3 「あの…じゃあ、僕も…呼んでもらっていいですか？」

女 3 「あ、はい…」

男 3 「すみません…」

女 3 「…お名前は？」

男 3 「…タカシです…そちらは？」

女 3 「…ヤスコです」

男 3 「よろしく願います」

女 3 「こちらこそ、よろしく願います」

男3、女3、恥ずかしくて俯いている。

みんな、顔が綻ぶ。

音楽。

暗転。

音楽流れたまま…

明転すると、ロールカーテンは全部開いていて、2階のベットで、それぞれのペアが、セックスしている様子が見える。

上手のベットに男2、女4。

中央のベットに男1、女2。

下手のベットに男4、女1。

1階のリビングでは、男3と女3。
みんなを待っているようだ…。

二人、目が合い…

男 3 「…」

女 3 「…」

暗転。

【シーン5】

テロップ『AM2:30』

明転。

音楽、流れたまま…

男3と女3が中央のベットでセックスしている。
女3、騎乗位で激しく腰を振っている。
しばらくして、体位を変え、男3が上になり、正
常位で激しく腰を振る。

音楽、止まり…

下手のベットでは、男4と女1がまだいる。
男4、女1の背中にベターツとのっかり、後ろか
攻めている。

1階のリビングには、男1、2、女2、4がソフ
アーに座って、上の様子を見ている。
今までは打って変わって、打ち解けている4人。

女3、とんでもない喘ぎ声。

女3「ギャー！ギャー！」

みんな、笑って…

女4「すごい。はげしい」

女2「やばいね。あのコ」

男2「絶叫マシン、乗ってるみたいっすね」

男1「富士急。富士急」

みんな、笑って…

男1「つーか、童貞と常連、まだやってんの？」

女4「何か、バックやったらすぐ抜けちゃうみ
たいで」

女2「やり方、教わってたよね」
男2「まあ、あそこはいいんじゃないですか」
女3、さらに激しい喘ぎ声。

女3「ウギャー！ウギャー！」

みんな、笑って…

男1「決めた。次、あのコ(女3)とやりませ
わ」
男2「絶叫マシン、乗りますか」
女4「(男2に)次、常連さんとやってみてく
ださいよ」

男2「無理。無理」

女2「いいじゃん。テクとかありそうじゃん」

男2「や、だって、病気とか怖いっすよ」

女2「ああ、それは危ないかもね」
男2「Aのつく病気になったらしゃれになん
ないっすよ」

男1「HなIなVなやつね…」

男2「そう。そう」

女4「ひどい」

男2「つーか、二人は検査とかしてます？」

女2「え、してない」

女4「私も」

男1「それやべーじゃん」

男2「じゃあ、ちよっと診察しましょうか」

男1「そうっすね」

男1と男2、女2と女4の股を開かせて…

男1「すごいよね。こっから子供が出て来ると
はおもえねーな」
男2「神秘ですよね」
女4「(女2のマンコを見て)え、クリトリス、
大つきくないですか？」
女2「え、そう？(女4のマンコを見て)あ、
ほんとだ。私のでかいわ」

男1「でも、こう見比べると、人によってマン
コのカチチって全然違うよね」
男2「十人十色ですね」
しばらくマンコを鑑賞する男1、2。

女2「やばい。見られただけで濡れてきちゃっ
た」

女4「私も」

【1】

男1、女2のクリトリスを触る。

女2「だから、クリをそんなに激しくされても
痛いだけだから」

男1「え、これくらい？」

女2「あ、そう。そう。めっちゃきもちいいわ」
感じる女2。

【2】

男2、女4のマンコに指を入れて…

男2「Gスポットってどこなんですかね？」

女4「もうちよっと奥ですわ」

男2「え、ここっすか？」

女4「あ、そこです」

男2は女4に手マン。
感じる女4。

【1】【2】同時進行。

女4、立ち上がって…

男2「え、どこ行くんすか？」
女4「ちよっとやりたくなってきたんで。シャ
ワー浴びて来ます」
男2「早く、戻って来てね」

女 4 「はい」

女 4、バスルームに入る。

男 2、男 1 の顔に、自分の指を近づける。

男 1 「くさ！」

男 2 「(笑う)」

男 1 「(バスルームを指して) あいつでしょ」

男 2 「そう。そう」

女 2 「え、何?何?」

男 1 「(バスルームを指して) や、あいつ、超マンクサだから」

男 2 「やばいですよね」

女 2 「え、それってマンコが臭いってこと?」

男 1 「舐めました?」

男 2 「できない。できない」

女 2 「やばいね」

男 1 「さらに、すげーマグロじゃなかったっすか?」

男 2 「まじ羨えましたよね」

女 2 「ダブルパンチだ」

男 1 「金玉舐めなくなかったっすか?」

男 2 「ありえないっすよね」

女 2 「だめじゃん」

男 1 「金玉はマストですよ」

男 2 「舐めなければ…ならない…ですよ」

女 2 「(笑う)」

男 1 「あれで、可愛くなかったら、殺してま

よね」

男 2 「死刑っすよ」

女 2 「え、ちょっと待って。あのこ可愛い?」

男 1 「え、可愛いじゃん」

男 2 「可愛いっすよね」

女 2 「私、全然、そう思わないんだけど…」

男 1・男 2 「…」

女 2 「私の友達とかで、もっと可愛い子いっぱいいるから…」

女 2、首を傾げている。

男 1 「(話しを変える感じで) この人、さっき、超潮吹いたんすよ」

男 2 「まじっすか!見てー!見てー!」

男 1、2、ダブルで女 2 に手マンして…

女 2 「(感じながら) やばい。やばい。吹きそう!」

店員 2、従業員室から出て来る。

その状況を見て、笑い…

店員 2 「お客さん。めっちゃなじんてるじゃないっすか!」

男 1、2、店員 2 の手を取って、握手して…

男 1 「最高です。楽しいっす」

店員 2 「今日、あたりっすよ。可愛い子ばっかですよ」

男 2 「そうっすね」

店員 2 「いつもはもっとひどいの混ざってますからね」

女 2 「あのさ、あのさ、あのこ、可愛いと思っ?」

店員 2 「え、誰?」

女 2 「あれ…あの…髪長い」

店員 2 「え、可愛いじゃん」

女 2 「(不服そうに) あ、そう…」

女 3 の激しい喘ぎ声はまだ聞こえてくる。

女 3 「(叫び) イグー!イグー!」

女 3 の声、頂点に達する。

男 3、いったようだ。

店員 2 「(笑って) すげーな。あのこ」

男 1 「次、俺やるんすよ」

店員 2 「いいな。超やりたくなってきたんだけど」

男 1 「入ったらいいじゃないっすか」

店員 2 「2万払わないとやったらだめだって、店長に言われてて。まじで、あいつ殺す計画たてるんで」

男 1 「(笑う)」

女 2 と話していた男 2、店員 2 に自分の指を近づけて…

店員 2 「くさ!」

みんな、笑う。

店員 2 「すげーチンミの臭いすんだけど」

男 1 「や、ちよっと、マン臭(しゅう) 事変が起こってまして…」

店員 2 「何すか。それ」

男 1、店員 2 に耳打ち。

店員 2、爆笑。

男 4 と女 1、2 階から降りてくる。

女 2 「(女 1 に) お疲れ様です」

女 1 「はい」

男 2 「(男 4 に) お疲れです」

男 4 「あ、どうも」

【1】

女 1、ジュースをくんでカウンターの方に行き…

店員 2 「おめー、何回やったの?」

女 1 「2回」

店員 2 「え、誰と」

女 1 「(男 4 を指す)」

店員 2 「いや、もう1回は」

女 1 「(男4を指す)」
店員2 「(笑って) やっぱ、すげーな。おまえ」

女 1、カウンターの椅子に座る。

【2】
男4、ジュースを飲んでいる。

男 1 「やー、でも、顔変わりましたね」

男 4 「ああ…そうですか」

男 1 「童貞の時とは、別人ですよ。あか抜けたっていうか」

男 4 「あ、ちょっとすみません」

男4、カウンターに向かう。

【3】
男2と、女2、適当な会話。

【1】【2】【3】同時進行。

店員2、従業員室に戻りながら…

店員2 「(男1に) ちょっと、あいつ(店員1)ぶっ殺してきますわ」

男 1 「(笑って) もう、やっちゃって下さい」

店員2、従業員室に去る。

男4、女1のところに来て…

男 4 「あの…2回目は色々、アレンジしてみたんですけど、どうでしたか？」

女 1 「え、どこが？」

男 4 「いや、浅く入れたり、深く入れたり。入れているから、グラインドさせてみたりしたんですけど」

女 1 「あ、ごめん。全然気づかなかったわ」
男 4 「あ、そうっすか…」

男1、2、女2、二人の話しをにやけながら聞いている。

女 1 「あのさ、とりあえず、けつの穴に入れるのやめてくれない。ちゃんと確認してさ」

男 4 「あ、すみません」

3人、笑いをこらえている。

男 4 「あの…次は別の人とやって下さい」

女 1 「ああ…はい」

男 4 「教えてもらったこと、他のコでためしてみたいんで」

女 1 「いいんじゃない」

男1と男2、女2に『次やれ!』と促している。
女2、『勘弁してよ』と身振り。

男 4 「(深々お辞儀して) 色々、ありがとう」
女 1 「はい」

男4、テーブルの方に来る。

【1】

男 4 「どうも…」

男 1 「どうっすか?調子は?」

男 4 「(女1を指して) 何か、すげー、怒られちゃいました…」

男3と女3、2階から降りて来る。

男1、それに気づいて…

男 4 「いやー、バックって難しいっすね」

男 2 「まあ、慣れですよ」

男 4 「想像してたより、穴の位置って遠くて…」

男 2 「(笑って) ああ…そうっすね…」

男2と男4、会話。

【2】

女2、男4を避けるようにして女1と話す。

女 2 「そっちってお菓子何あります?」

女 1 「チョコとかだけど…」

女2、男4を気にしながら、女1と会話。

【1】【2】同時進行

男1、女3に話しかける。

男 1 「お疲れさまです」

女 3 「ああ…」

男 3 「…」

男 1 「見てたよ。すごいね。ナイスファイト」

女 3 「ああ…どうも」

男 3 「…」

男 1 「いっつもあんなに声出してるの?」

女 3 「ああ…」

男1、女3にちよっかいを出す。
それを見ている男3。

女4、バスルームから出て来る。

女 4 「(男3に) あ、シャワーいいですよ」

男3、男1と女3を気にしながら、女2と話している女1に…

男 3 「シャワー入りました?」

女 1 「あ、後でいい」

男3、男2と話している男4のところに行つて…

男 3 「シャワー入りました?」

男 4 「後で入ります」

【1】

男 3、女 3 のところに戻って…

男 3 「(優しく) シャワー、みんな、入らない
みたいだから浴びてくれば…」

女 3 「ああ、はい…」

女 3、バスルームに行く。

男 3、しばらく立ったまま。バスルームの方を
気にする。

【2】

女 4、ソファアに座り…

男 2 「え、早くないですか？ シャワー」

女 4 「そうですか」

男 2 「ちゃんと洗いました？」

女 4 「はい」

男 2 「ああ…そうですか…」

男 2 と女 4、会話。

【3】

男 1、女 3 のところから離れ、男 4 のところに行
き…

男 4 「あの次、誰とやるのか決めましたか？」

男 1 「え、まだ決めてないんですか？」

男 4 「あ、はい」

男 1 「じゃあ、一人、立候補してる人がいるの
で…」

女 1 と話していた女 2、それを聞いていて…

女 2 「ちょっと！」

男 1 「(笑う)」

男 4 「え、何ですか？ 何ですか？」

女 2 「や、何でもありません」

【1】【2】【3】 同時進行。

男 2 と女 4 に…

男 1 「あの…次、俺、女子大生と決定でいいで
すよね」

男 3 「(それを聞いていて)…」

男 4 「え、そうなんすか。じゃあ、どうしよう。

(男 1 とシャワールームを指して) ここは決まっ
て…(男 2 に) どうします？」

男 2 「え、ああ…」

女 4 「(男 3 に) 次、いいですか？」

男 3 「え」

女 2 「ちょっと待って。そこ勝手に決まるんだ」

女 4 「(無視して男 3 に) いいですか？」

男 3 「あ、はい…」

女 2 「(男 2 に) え、どうすんの？」

男 2 「ああ…。(見渡して) こう(自分と女 4
を指して) はダメなんすよね」

女 4 「あ、はい」

男 4 「だから…あれっすよね…(男 2 と女 1 を
指して) こうと(自分と女 2 を指して) こうです
よね」

男 2 「え、でも、また、(自分と女 2 を指して)
こうでもいいんですよね」

男 4 「あの、僕、次、別の人とやりたいんです
よ」

男 2 「ああ…」

女 2 「あの…別に今、決めなくてもいいんじや
ないですか」

男 2 「まあ…そうっすね」

【1】

女 2 「(女 1 に) その場のノリとかでいいです
よね」

女 1 「ああ…そうだね」

女 2 「あんまり順番とか決めてもさ…」

女 2 と女 1、会話。

【2】

男 2 「その場の雰囲気にかかせましようよ」

男 4 「(不服そうに) ああ…」

男 1 「とりあえず、俺は、(バスルームを指し
て) あのコとやるんで」

男 2 「それは、オッケーっす」

【3】

女 4、男 3 に…

女 4 「あの…次、絶対、お願いします」

男 3 「ああ…はい」

【1】【2】【3】 同時進行。

【1】

女 2、女 4 に…

女 2 「あのさ…今度からは、ちゃんとみんな
話し合っつて、順番決めようよ」

女 4 「あ、はい…」

女 2 「すごいびっくりしたんだけど…」

女 4 「あ、すみません…」

女 2 「別にいいけど…」

女 2、また女 1 と会話。

【2】

男 1、男 2 に…

男 1 「(女 1 を指して) 大丈夫っすよ。顔隠し
てやれば。スタイルけっこういいから」

男 2 「そういう問題じゃなくて」

男 1 「あ、病気」

男 2 「ちんぽに斑点できちゃいますよ」

【3】
男3、男4に：

男3「今、何時つすか？」

男4「(携帯を見て) 2時半です」

男3「ああ…」

【1】【2】【3】 同時進行。

【1】

男1、男3に：

男1「どんな感じでした？あのコ」

男3「え」

男1「特に感じるどころとかありました？」

男3「いや、別に…」

男1「何か情報下さいよ」

男3「…」

男1、男3に執拗に女3の情報を聞こうとする。

【2】

男4、女4に：

男4「次の次ってお願いしていいですか？」

女4「え、次の人、決まったんですか？」

男4「いや、まだなんですけど」

女4「じゃあ、それが決まったら」

男2「だから、そうやって決めないで、ノリでいきましようよ」

男4「え、でも、あなたが(女1を指して)あの人に決まったら、僕も自動的に決まるから」

男2「や、そうなんですけど…」

男4「僕、言ってきますよ」

男2「ちよっと！」

男4、女1のところに向かう。

【3】

男4らの会話を気にしながら、女1と会話している女2。

【1】【2】【3】 同時進行。

【1】

男4、女1と女2が会話しているところに来て：

男4「あの、次、誰とやるか決まってるよ

よね」

女1「私は誰でもいいよ」

男4「(男2を指して) あの人はまだ決まってるよ」

女2「(強く) つーか、ほんとにその場のノリでやりましようよ」

男4「ああ…」

女2、そこから抜け：

女1と男4は、そのまま会話。

【2】

男1と男3。

男1「あのコ、マンコくさくなかったっすか？」

男3「え」

男1「大丈夫っすか？」

それを聞いていた女4

女4「そんなわけないじゃん。シャワー浴びてるのに」

男1「まあ、そうっすよね」

男1、男2、笑う。

【1】【2】 同時進行。

男1、2、女4の会話に、女2も加わり…

男1「でもね、シャワー浴びてもクサいって場合もあるから」

女4「えー、そんなコいるんですかー？」

男2「いるんですよ」

女4「シャワー浴びてもクサいって、かなりやばくないですか？」

女2「やばいよねー」

男1、2、女2、にやける。

男1「彼氏とかに何か言われたい？」

女4「え…何が」

男1「いや…」

男1と男2、ひそひそ話。

女2「ていうか、彼氏いるんだ？」

女4「あ、はい…。え、彼氏いるんですか？」

女2「いるよ」

女4「(意外な感じで) へー」

女2「いるよ。普通に。え、いなさそう？」

女4「や、そういう意味じゃないんですけど」

女2「え、じゃあ、どういう意味？」

女1と男4は、会話している。

男3、しきりに、バスルームの方を気にしている。

【1】

男1、男3に：

男1「あの、俺、まじがんばりますよ」

男3「ああ…」

男1「さっきの倍、声出させますんで。見て下さい」

男3「ああ…」

それを聞きながら、バスルームを気にする男3。

【2】

女4、男2に：

女4「彼女さんとかいるんですか？」

男2「いないっすね」

女2「ヤリ友、千人くらゐいるんでしょ？」

男2「あの…俺、カミさんいるんで」

女2「まじで！」

【3】

男4と女1は相変わらず、会話。

【1】【2】【3】同時進行。

【1】

男1「え、何？何？」

女2「この人、奥さんいるんだって」

男1「まじっすか」

それを聞いていた男4。

男4「え、結婚されてるんですか？」

男4、テーブルの方に来る。

女2、男4を避けるように、テーブルから少し離れて、その会話を聞く。

男4「奥さんと一緒に来ればよかったじゃないっすか」

男2「無理。無理」

男4「え、だって、カップルだと5千円になるんすよ」

男2「まあ、そうですけど」

男1「こんな不景気にもったいないっすよね」

男2「苦笑」

【2】

男3、女1のところに行き…

男3「(女1に)今、何時っすか？」

女1「2時30分くらい」

未来にはいるんで
男1「びびったー」

男3、また、シャワールームを気にする。

男1と男4、会話。

【1】【2】同時進行。

【1】

女2、カウンターの方向を向き…

男3、真っ先に女3のところに行行って…

女2「(男2を指して)あの人、奥さんいるんだって」

女1「へー」

女2「え、彼氏さんとかいるんですか？」

女1「いるよ」

女2「え、そうなんですか。どんな感じの人ですか？」

女3「ああ…」

女1と女2、会話。

【1】【2】【3】【4】同時進行。

【2】

男2と女4。

女2、テーブルに戻って…

女4「奥さんじゃ。満足しないんですか？」

男2「じゃあ、彼氏じゃ満足しないんですか？」

女4「いやー。ねー」

男2「多分、同じ感じだと思いますよ」

女2「何か、(女1を指して)彼氏いるんだって」

女4「あー」

女4「えー」

男2と女4、会話。

男1「(女3を手招きして)ちょっといいっすか」

【3】

男1と男4。

女3「あ、はい」

男1「彼女とかいるの？」

男4「あー、今はいません」

男3「や、ちょっと休ませた方がいいんじゃないですか？」

男4「(ふざけて)いや、今はいいですけど、

男1「ああ…」

男 3 「終わったばかりだし…」
男 1 「まあ、そうっすね…」
女 3 「…」

【3】

店員2、従業員室から出て来て、女1と話す。

店員2 「まだ3回戦、始まんねーんだ」

女 1 「いつもだったら、もう5回くらいやってるよね」

女1と店員2、会話。

【1】【2】【3】 同時進行。

【1】

女2、カウンターの方を向き…

女 2 「もしかして、(店員2を指して) 彼氏さんですか？」

女 1 「違うよ。やめてよ」

店員2 「まじありえないっす」

男1、そこに加わり…

男 1 「え、どうしたんすか？」

店員2 「(従業員室を指して) ちょっと気まずいんで、こっちにいいいっすか？」

男 1 「え、やって(殺して) ないんすか？」

店員2 「(女1を気にして) いや、まあ…」

【2】

男2、4、女4、他愛もない話。

男 2 「いやー、でも(女4を指して) こんなコが彼女だったらどうします？」

男 4 「ああ…でも、僕、あの人(女2を指して)

の方がタイプで」
女 4 「え、そうなんですか」

女4、女2を呼んで…

女 4 「あの…何かタイプらしいですよ」

男 4 「(照れて) ちょっと…」

女 2 「ああ…」

女 4 「次、やったらいいんじゃないですか？」

【3】

男3、女3を座らせて…

男 3 「何か、飲み物、飲む？」

女 3 「あ、はい…」

男3、飲み物をくんであげ、お菓子も取ってあげる。

女 3 「あ、すみません…」

【1】【2】【3】 同時進行。

【1】

女 2 「でも、ノリで決めましょうね。そういうことは」

男 4 「ちなみにそのノリって何時くらいに来るもんなんですかね？」

女 2 「さあ…」

男 4 「時間も迫って来てるし」
女 2 「まあ、そういうのって、望むものじゃないんで、勝手にやって来るものだから、気長に待ちましょうよ」

男 4 「(不服そうに) ああ…」

【2】

店員2と女1、会話。

【3】

女 4 「でも、子供とかできたら、これなくなりますよね。」「ういうと」「」

男 2 「(にやけて) あの…」

女 4 「え」

男 2 「俺、子供もいるんすよ」

女 4 「えー」

【4】

男1、飲み物を飲んでる女3に…

男 1 「(女3に) もういい？」

女 3 「え」

男 3 「ちよっと、まだ早いですよ」

男 1 「あと、何分休む？」

女 3 「や…」

男 1 「じゃあ、それ飲み終わったらね」

男 3 「…」

男3、男1が見ていない隙に、女3のコップにジュースを注ぐ。

女 3 「…」

【1】【2】【3】【4】 同時進行。

【1】

男2と女4の会話に、男1、女2も加わる。

男 1 「何？何？」

女 4 「この人、子供いるんだって」

女 2 「え、どっち？」

男 2 「ああ、メスです」

男1、女2、4、笑う。

店員2と話していた女1。

女 1 「え、どうしたの？」

女 2 「子供いるらしいですよ。あの人」

店員2 「まじっすか」
女2 「子供はいないですよね？」
女1 「いない。いない」

女1と女2、店員2、会話。

【2】

男4 「(男3に) シャワー浴びないんすか？」
男3 「あ、いいですよ。先、浴びて」
男4 「ああ…はい…」

男3、女3と会話。

男4、立ち上がり、テーブルから離れて…

【1】 【2】 同時進行。

【1】

女4 「娘がこういうとこ来てたらどうします？」
男2 「殴りますよ」
女4 「自分も来てるのに」

男2 「それとこれとは別じゃないっすか」
女4 「何、それ」

男1 「奥さんに何て言ってきたんですか？」
男2 「ちよつと飲みに行くって」
男1 「ああ…飲みに行くって。ここでマシ汁飲んでるんすね」
男2 「あ、そっか。嘘言ってるっすね」

【2】

男4、カウンターに向かい、店員2と話している
女1に…

男4 「先、シャワーいいっすか？」
女1 「いいよ」

【1】 【2】 同時進行。

【1】

男2 「ていうか、今日は彼氏に何て言って来たの？」
女4 「友達のと泊まるって」

男2、女4、会話。

【2】

男1、飲み物を飲んでいる女3に…
男1 「あと、何秒休む？」
女3 「あ、いや…」

男1 「あ、そう。じゃあ、(上を指して) 行こうか」
男3 「ちよつと、まだ飲み終わってないですよ？」

男1 「ああ…ごめん。ごめん」
女3 「…」

【3】

男4、女2のところに行き…

男4 「あの…」
女2 「あ、はい」

男4 「(真剣に) 僕、シャワー浴びてくるので、もし、ノリがそうならいつでも声かけてください」
女2 「ああ…」

男4、シャワールームに向かう。
女2に軽く会釈して、シャワールームに入る。

女2 「…」

【1】 【2】 【3】 同時進行。

それを見ていた男1、にやけて…

男1 「完全にロックオンされたね」
女2 「ちよつと勘弁してよ…。(男3に) ねえ、

ねえ、次、やっぱり、私とやりませんか？」
男3 「え」

【1】

それを聞いていた女4。

女4 「え、次、私とですよね？」

男3 「ああ…」
女4 「もう決まってるので…別の人とお願いします」
女2 「(舌打ちして) 勝手に決めたくせに」

【2】

男1、飲み物を飲み終わった女3に…
男1 「じゃあ、行きますか？」
女3 「ああ…」

【3】

男1、女3を上に入れて行こうとする。

男3 「ちよつと！」
男1 「え」

男3 「もうちよつと休ませた方がいいんじゃないですか」
男1 「え、大丈夫なんですよ？」
女3 「ああ…」

女1と店員2は、相変わらずカウンターで会話。

【1】 【2】 【3】 同時進行。

【1】

女2、男2に…
女2 「ちよつとまじでピンチなんだけど」
男2 「もう覚悟きめましょうよ」

女2 「あ、そういうこと言うんだ」

女2、女1に…

女2「あの…この人が！」

男2「(焦って) ちょっと！」

女1「え」

女2「いや、何でもないです…」

女2、笑う。

【2】

女4、気まずくて立ち上がって…

女4「(男3に) 次、ほんとお願ひしますね」

男3「ああ…はい…」

女4、カウンターに行く。

【3】

男1、女3の手を取り、2階に行こうとする。

男3、男1と女3を追いかけて…

男3「ちょっと、ちゃんと女性の意志を尊重し
ましようよ」

男1「え、何?何?」

男1、男3、しばらく、立ったまま会話。

【1】【2】【3】同時進行。

【1】

女4、携帯がないようので、探している。

男2「どうしたんすか?」

女4「携帯なくて」

男2「また、上じやないですか?」

女4「ちょっと見てください」

女4、2階に向かう。

【2】
女1、テーブルの方に来て…

女1「え、何?何?」

女2「や…」

女1「何か言いたいことあるなら言ってよ」

女2「ごめんなさい。ほんと何でもないです」

女1、またカウンターに戻る。

【3】

店員2、男1と男3が話しているのが目に入り…

店員2「何すか、作戦会議つすか」

男1「ああ…ちょっと」

店員2「うち、ホモるの禁止ですよ」

店員2と男1、会話。

【1】【2】【3】同時進行。

女2、2階にいる女4を見て…

女2「何やってるの?あいつ」

男2「携帯、探してます」

女4、2階から男2に携帯を見せて…

女4「ありましたー」

女2、舌打ちして…

女2「まじ、むかつくあの女」

【1】

男2、男1と男3が目に入り…

男2「(男1に) どうしたんすか?」

男1「いや、ちょっと」

男1、部屋の隅に男3を連れて行く。

そこでひそひそ話。

それを見ている女3。

【2】

女1と店員2、会話している。

爆笑する二人。

【3】

バスルームから、男4、出て来る。

女2、男4と目が合いそうになって、逸らす。

男4、女2を気にしながら、カウンターに行く。

【1】【2】【3】同時進行。

女2「もう、戻って来たんだけど。早くねー」

男2「やる気満々ですね…」

女4、2階から戻ってきて、一人でいる女3に気
づいて

女4「大丈夫ですか?」

女3「ああ…」

女4「(女3に) 座ったらどうですか?」

女3「ああ、はい」

女4「でも、さっき、すごい気持ち良さそう
でしたね」

女3「ああ…」

女4「(男3を指して) あの人、上手いんです
か?」

女3「ああ…」

女3と女4、座って会話。

それを見ていた女2、女4のけつを蹴る振り。

笑う男2。

女3は会話しながらも、男1と男3を気にする。

【2】
もめている男1と男3

男1「だから、言ってる意味わかんねーって」
男3「いや…」

【3】
女1と店員2、会話。

【1】【2】【3】同時進行。

男1「わかった。わかった。もういいわ」

男3「いや、だから…」

男1「さみーよ。おまえ」

男3「だから違いますよ」

男1、テーブルに戻り…

女2「え、どうしたの？」

男1「もう、3Pしよー。3P」

男2「あ、いいっすね」

女2「そうしよ。そうしよ」

男1と男2、バスタオルを取って、女2の顔の前に股間を近づける。

はしゃぐ3人。
その場に立ちすくんでいた男3、女3と目が合っ
て…

男3「…」

女3「…」

店員2、テーブルの方に来て、お菓子を補充しながら、盛り上がっている3人を見て…

店員2「盛り上がってますね。男祭りっすか」

【1】

男1、そこから離れて、店員2に…

男1「ちょっといいですか？」
店員2「え、何すか？」

男1、キッチンに行つて、店員2と立ち話。

【2】

男3、カウンターのところに行つて…

男3「今、何時っすか？」

女1「だから、2時半くらいだつて」

男3「ああ…」

【3】

男4、男2と女2の方に来て…

男4「お！やっと、そういうノリになりましたか」

女2「え」

男4「いいっすよ。僕、シャワー浴びて来たんで、このノリのまま、上行きましようよ」

女2「や」

男4、女2の手を取り、2階に連れて行くこととする。

【4】

女3と女4は会話。

【1】【2】【3】【4】同時進行。

その時…

突然、キッチンで激しい音がする。
みんな、異変に気付き…

女2「え、何？何？」

カウンターの裏で、男1と店員2が揉み合っている。

る。

男2、止めに入る。

男2「え、ちょっとどうしたんすか？」

長い沈黙。

男1、カウンターの裏から出て来て、リビングに戻り、ソファに座って煙草を吸う。

店員2も起き上がって、男1を睨みつける。

女1「…大丈夫？」

店員2「ああ…」

間

男1「金、返せ。こら」

店員2「できるわけねーだろ。てめー、やってんじゃねーかよ」

男1「だから、俺は、(女2を指して) やつたし、(女4を指して) やつたのね。あと、(女3を指して) ここしかねーじゃん」

店員2「(女1を指して) いんだろーがよ。まだ」

男1「は？それは勘弁だろ」

店員2「あん」

男1「おまえ、できんのかよ？こいつと」

女1「…」

男1「ぜってーマンコ腐ってんじゃん」

女1「は」

男1「あのね…おめーと誰もやりたがってないのね」

女1「…」

男1「(男2に) そうっすよね」

男2「え」

男1「さっき言ってたじゃないっすか」

男2「や…」

女1「(男2を見て) …」

男2「(吹っ切れて) まあ、そうっすね。正直、ちょっときついかもしれないっすね…」

女 1 「あ、そ…」
 男 1 「だからさ、おまえ、(男4を指して)こいつとずっとやってもらえる? あんたら二人、正直、厳しいんだわ」
 男 4 「え、何すか?」
 男 1 「あん」
 男 4 「え、え」
 男 1 「ちよっと待って。おまえ、わかってねーの?」
 男 4 「…」
 男 1 「何、童貞の分際で、こういうとこ来てんだよ」
 男 4 「…」
 男 1 「みんな、ドン引きしてんじゃん」
 男 4 「…」
 男 1 「え、わかんねー? そういうこと」
 男 4 「や、わかってますけど…」
 男 1 「わかってんなら、来んなって」
 男 4 「…」
 女 2 「(店員2に)あのおさ…男の人めちゃんと面接しなよ。女の子は可愛い子揃ってるのにおかしいじゃん」
 店員2 「…」
 女 2 「こっちの気持ちも考えてくれないと」
 店員2 「…」
 女 2 「(偉そうに)そういうことさ、一つ一つ、つめていかなないと店自体、大きくなんないと思うよ」
 女 1、笑って…

女 4 「いや…」
 女 2 「何、笑ってんの? あんた」
 女 4 「(笑いながら)ごめんなさい」
 女 2 「(切れて)つーかね、あんた、みんなにマンコが臭いって迷惑がられてるよ!」
 女 4 「…」
 女 2 「ここ来る前に、病院行けよ」
 女 4 「…」
 女 2 「クラミジアでしょ」
 女 4 「…違いますけど」
 女 2 「じゃあ、もっとやばいね」
 女 4 「…」
 最悪の空気。
 気まずい間。
 男 2 「(男1に)ていうか、何があっただんですか?」
 男 1 「だから…こいつが金返さないんですよ」
 男 2 「え、何で、そういうことになったんですか?」
 男 1 「や、あの…何か、こいつ(男3を指して)があいのりになってるんですよ。(女3を指して)好きとかなってんすよ」
 男 3 「(苦笑して)なってないですよ」
 男 1 「こらラフゴンすか?」
 男 2 「いや、ラフゴンじゃないっすね」
 男 3 「違いますよ。違いますよ。あの…だから、彼女が続けてだったんで、彼にちよっと休ませてあげた方がいいんじゃないかなって言ったんですよ」
 男 1 「何でおめーが口挟むんだよ。おかしいだろ」
 男 3 「わかってますよ。でも、お店の人も、女性の意志を尊重しましょうって言ってたし。彼女も、あなたのこと、ちよっと嫌がってたみたいだったから…」
 女 3 「は?」
 男 3 「え」

女 3 「何言ってるの。あんた」
 男 3 「…」
 女 3 「この人の方が全然やりたいたいんだけど」
 男 3 「…」
 女 3 「つーか、何、さっきから余計なことしてんだよ」
 男 3 「…」
 女 3 「おめー、まじうざいからね」
 男 3 「…」
 インターホンが鳴る。
 店員2、それに出て…
 店員2 「はい。あ、今、開けます…」
 店員1、従業員室から眠そうに出て来て…
 店員1 「カップルさん来たみたいですね」
 一同 「…」
 店員1 「どうですか。皆さん。…楽しんでます?」
 音楽
 暗転。

【シーン6】

テロップ『AM3:30』

明転。

ソファに座っている男5、女5。

他のみんなと店員2、気まずそうにいる。

店員1、眠そうに説明をしている。

店員1「初めての方ですよ」

男5「あ、はい」

店員1「まず、男性の方、エッチをする時は必ずコンドームをつけて下さい」

男5「あ、はい」

店員1「(だるそうに)上に白い袋に入ったコンドームと青い袋に入ったコンドームがあります。青い方がLサイズになってます。必ず、白い方をして、小さかったら、青い方をつけて下さい。じゃないと、女の子の中でとれちゃうことがあるので」

男5・女5「目を合わせてにやける」

店員1「1回、エッチが終わったら、シャワーを浴びて下さい。あと、トイレに行ったら、シャワーを浴びてから、エッチしてください」

男5、女5、いちゃいちゃしながら、聞いている。

店員1「あの、一応、確認なんですけど…」

男5「あ、はい」

店員1「スワップピングは大丈夫ですか？」

男5「え、何すか？それ」

店員1「彼女さんが、別の男性と、エッチしても大丈夫ですか？」

男5「ああ…。大丈夫ですよ」

店員1「(女5に)彼氏さんが別の女性とエッチしても」

ちゃって下さい」

一同「…」

店員1「(あくびしながら)朝5時まで楽しんでって下さい」

店員1、従業員室に去る。

店員2、男1を睨んで去る。

男1も、店員2を見る。

沈黙。

女5「(小声で)超静かなんだけど…」

男5「(小声で)ちよ、何か聞いてみる？」

女5「聞いて。聞いて」

男5「(男2に)あの、すみません」

男2「あ、はい」

男5「あの…皆さんって、もうそういうことはされたんですよ？」

男2「はい。しましたけど…」

男5「(女5に)まじか！すげー」

女5「すげー。すげー」

男5「え、何回くらいされたんすか？」

男4、いきなり立ち上がり、女1の方に寄って

男4「あの…上に行きませんか？」

女1「え」

男4「あ、はい」

女1、2階に向かう。

男4、みんなを気にしながら、それについて行く。二人、上手のベットに行き、男4、ロールカーテンを閉める。

男1、2、女2、苦笑して…

男1「あいつ、どんだけやりたいんだよ」

女2「あんなに言われたのに」

男2「かっけーっすね」

興味津々で、その様子を見ていた男5、女5。

男5「え、あれは、やりにいったんですか？」

男1「あ、そうっすね」

男5「おー」

女5「勝手に、誘っていいんだ？」

男5「おめー、誘ってみて」

女5「何で、私からの」

男5「頼む。先にいって」

女5「えー」

男5「俺、様子みるから」

女5「まじで？」

男5「まじ。まじ」

男5、女5を無理矢理、立たせて…

みんな、女5に注目。

女5、男達を見定めている。

男5「はやくいけって」

女5「誰でもいいのかな？」

男5「大丈夫でしょ。え、誰？誰？」

女5、ゆっくり歩き出す。

男1、男2、女5が寄って来たので顔を伏せる。

女5、そこを通り過ぎて、男3の方に行く。

女5「あの…」

男 3 「あ、はい？」
女 5 「(男5に) 何て言えばいいの？」
男 5 「わかんない。わかんない」
女 5 「(男3に) あ、あの…やりませんか？」
男 5 「(笑う)」
女 5 「(男5に) これでいいの？」
男 5 「オッケーオッケー」
女 5 「(男3に) え、え、だめですか？」
男 3 「いや…」
女 5 「(男5に) やばい断られそう」
男 5 「ちゃんとお願ひしろって！」

みんな、男3に注目している。

男 3 「吹っ切れたように」あ、いいですよ」
女 5 「え、ほんとですか…ありがとうございます」ざいます」

女5、深々とお辞儀。

男 3 「彼氏さん、大丈夫ですか？」
男 5 「え」
女 5 「(男5に) 大丈夫？」
男 5 「大丈夫。大丈夫。いつてらっしゃい」
男 3 「じゃあ、お借りします」
男 5 「どうぞ。どうぞ」

男3、女3を気にしながら…

男 3 「じゃあ、まいりましょうか」

男3、女5、階段に向かい…

男 3 「足下、気をつけて下さい」

男1、2、女2、にやけている。

男3、女5、2階に上がり、中央のベットに行く。
女5、ベットに乗って、はしゃいでいる。

男5、無表情でその様子を見ている。
女3も、上を気にしている。
男3、みんなに下から見られているのに気付き、
ロールカーテンを閉める。
男1、2、女2、苦笑。

女 2 「あの人、誰でもいいのかな？」
男 2 「そうみたいですわね」
男 1 「ブス専でしょ。ブス専」
女 3 「(氣まずくて)…」
そわそわしている男5に…

男 2 「大丈夫ですか？」
男 5 「え」
男 2 「いや、彼女さん…」
男 5 「ああ、全然大丈夫ですよ。っていうか、
あの人はあいつでいいんですかね？」
男 1 「いいわけないじゃないですか。罰ゲーム
でしょ」
男 5 「え、ああ…」

男2、女2、笑う。
男5、さりげなく、2階を気にして…

男 5 「でも、すごいですね。ここ」
男 1 「びびりました？」
男 5 「こんなところがあつたんすね」
男 1 「あつたんすよ」
男 5 「ていうか、僕もやっていいんですよね」
男 2 「あ、はい」
男 5 「誰でもいいんですか？」
男 2 「聞いてみて下さいよ」
男 5 「(女2に) え、僕とやってくれますか？」
女 2 「あ、はい」
男 5 「おー。すげー」

男1、2、笑う。

男 5 「(女3に) 僕とやってくれますか？」
女 3 「あ、はい」
男 5 「すげーすげー」
男 1 「あ、すみません。このコはできないんす
よ」
男 5 「え、何で」
男 1 「いや、ちよっと…」
男 5 「何で？何で？」
女 3 「(男5に) 大丈夫ですよ…」
男 5 「大丈夫って言ってますけど」
男 1 「じゃあ、いいんじゃないですか」

男1、2、笑う。

男 2 「で、誰にするんすか？」
男 5 「ああ…」
男 2 「え、誰っすか？」
男 5 「えっと、あの、僕、(女4を指して) あ
のコがいいんですけど」
ずっと、隅で黙っていた女4。

女 4 「…」
男 2 「(笑う) 直球ですね」
男 5 「え(女2を指して) これくらいにしとけ
ばよかつたっすか」
女 2 「…」
男 5 「これくらいだったら、やったこともあるも
ん」

女 2 「…」
男 5 「(女4を指して) これはないもん」
女 4 「(苦笑)…」
男 5 「え、で、まじでこのコとできんの？」
男 1 「聞けばいいじゃないですか」
男 5 「あの、僕とやってくれますか？」
女 4 「あ、はい」
男 5 「おー！まじっすか！」
女 4 「あの…私、ちよっとシャワー浴びてきま
す」

男 5 「え、まだ浴びてないんすか？」
女 4 「浴びたんですけど。すみません」

女 4、バスルームに入る。
それを見て、男1、2、苦笑。

男 1 「あのコ、クンニはしない方がいいっすよ」
男 5 「え、何でっすか」

その時、2階から女5の喘ぎ声が、聞こえてくる。

女 2 「(男5に嫌味っぽく) 始まったみたいですよ」
男 5 「…」

しばらく、その喘ぎ声を聞く一同。

男 1 「どうなんすか？」
男 5 「え」

男 1 「自分の女がやられてるわけじゃないっすか？」
男 5 「ああ…」

男 2 「嫉妬とかします？」

男 5 「ぶっちゃけていいっすか？」

男 2 「あ、はい」

男 5 「何とも思わないっすね…」

男1、2、笑う。

女3、2階をしきりに気にしている。

男 1 「あれでしょ。あのルックスだったら、他の奴にやられても、たいして痛くねーって感じでしょ」

男 5 「え。あ、まあ…」

男 2 「ひどいっすね」

男 5 「(微妙な顔)…」

女5、喘ぎ声、高まり、獣のように叫ぶ。

女5の声「あー！あー！あー！」
男 1 「やべー。何、これ」

男2、女2も、笑う。

男 1 「普段もあんな声、出してるんすか」

男 5 「ええ、まあ」

男 2 「きついっすね」

男 5 「…」

男 1 「(男2、女2に) ちょっと見に行かない？」

男1、2、女2、階段を上り、部屋の入り口のところまで、男3と女5のセックスを覗いている。
3人、笑い転げている。

男 5 「…」

男5、無表情で煙草を吸っている。

女3は、俯いている。

二人、目が合つて…

男 5 「…」

女 3 「…」

女5、喘ぎ声高まり、頂点に達する。

男3、いったようだ。

みんな、笑いながら戻って来て…

女 2 「(女3に) あの人、イクの早くない？」

女 3 「…」

女 2 「つか、さっきの喘ぎ声、演技でしょ？あんな、小さいチンポで気持ちいいわけないよね」

女 3 「…」

男 1 「(男2に) いや、やばいっすね。あの女」

男 2 「何食ったらあんな声出るんすかね」

女 2 「豚人間、あらわる」

男 5 「…」

男1、2、女2は、女5の悪口。

男 5 「あの…俺、もう行っちゃっていいですか？」

男 1 「や、まだ、シャワー浴びてるじゃないっすか」

男 5 「や、あのコじゃなくて。(女3に) あの、僕とやつてもらえますか？」

女 3 「…」

男 5 「さっき、いいって言ってましたよね？」

女 3 「…」

男 5 「え、ダメなの？」

女 3 「や…大丈夫です」

男 5 「じゃあ、(煙草を指して) これ吸ったらお願いします」

一同「…」

男 5 「あの二人に負けないようにがんばりましょうね」

女 3 「あ、はい…」

男3と女5、2階から降りてくる。

男 5 「おお…」

女 5 「ああ…お先っす」

男3、女3と目が合い…

男 3 「…」

女 3 「…」

男3、気まずくて、シャワーに入ろうとすると…

女 2 「シャワー入ってますけど」

男 3 「…」

男3、その場に立ったまま。

女5、ソファアに座り、飲み物を飲み…

男 5 「どうだった？」

女 5 「ああ…よかったよ」
男 5 「え、どんな体位でやったの？」
女 5 「え、いつもと一緒だよ」

男 5 「フェラとかは？」

女 5 「ちよっとした」
男 5 「ああ…そう…」

男 5、煙草の火を消して…

男 5 「(女3に) じゃあ、お願いします」

女 3 「あ、はい」

女 3、男3を気にしながら、立ち上がる。

男 3 「…」

男5も立ち上がって…

女 5 「あ、あのコとやるんだ？」

男 5 「うん…。大丈夫？」

女 5 「大丈夫。大丈夫」

男 5 「じゃあ、行くよ」

女 5 「頑張ってるね」

男5、女3、2階に向かう。

女3は、男3を気にして…

男5は、女5をちらつと見て…

階段を上がって行く二人。

女4、バスルームから出て来て、その様子を見て

女 4 「あの、浴びましたけど…」

男 5 「ああ…すみません。僕、やっぱり、この

コとやることにしたんで…」

女 4 「え、何か言われたんですか？」

男 5 「や、そういうわけじゃないんですけど…」

女 4 「…」

男5、女3、下手のベツトに行く。

女4、その場に居るのが気まずくて、トイレに駆け込む。

女 5 「(男5に) 煙草忘れてるけどー」

男 5 「あ、いらねー」

男3、2階の様子をじーっと見ている。

女3、ロールカーテンを閉める。

間。

女5、煙草に火をつけて…

みんな、女5に注目。

男 2 「あの…」

女 5 「はい」

男 2 「(上を指して) 大丈夫なんですか？」

女 5 「え」

男 5 「彼氏さん、上行っちゃいましたけど…」

女 5 「あー。大丈夫ですね。嫉妬とかはないんで」

男 1 「でも、スワッピングってそういうので盛り

り上がったりするんじゃないっすか？」

男 5 「や、私達はそういうのじゃないんで…」

男 2 「え、じゃあ、何で、ここにいらしたんですか？」

女 5 「や、あの…私達、村上龍がすごく好きで

…」

一 同 「…」

女 5 「あの人の小説ってフリーセックスとかが

すごく美しく描かれてるじゃないですか…」

一 同 「…」

女 5 「だから、私たちも、何て言うんだろ、そ

ろそろそういう超越した関係になりたいっていう

うか…」

一 同 「…」

一 同 「…」

男5、2階から降りてくる。

男 1 「どうしたんすか？」

男 5 「ああ…」

男 1 「もうやったんすか？」

男 5 「やってないっすよ」

男 2 「え、何でやんないんすか？もったいない

っすよ」

男 5 「まあ、そういう人間がいても、面白いじ

やないっすか」

男 1 「何すか。それ」

男 5 「(男3に) あ、何か、上であのコ呼んで

ましたよ？」

男 3 「え、僕ですか？」

男 5 「あ、はい」

男3、2階に向かう。

【1】

男5、ソファアに座って…

女 5 「え、やんないの？」

男 5 「やんない。やんない」

女 5 「っーか、やってよ」

男 5 「え、何で？」

女 5 「私もやったんだから」

男 5 「や、俺はいいわ」

女 5 「え、だって、罪悪感のもつとか面倒く

さいし…」

男 5 「何、おまえ、罪悪感もってんの？」

女 5 「いや、そっちがやんなかったらね」

男 5 「ああ…」

女 5 「ちよっとやってよ。ほんとに」

男 5 「だからいいって」

女 5 「私が困るから、やってって」

【2】

トイレから、女4、出て来る。

みんな、それに注目。

気まずそうに、隅に座る女4。

2階から、男4と女1、降りて来て：

女1「あんた、また、アナルに入れてたよ」

男4「え」

女1「何か、気持ちよくなってきたから、言わなかったけど…」

男4「すみません…」

それを聞いて、顔を見合わせてにやける男1、2、女2。

【1】【2】同時進行。

男5、いきなり、ぶち切れる。

男5「やんねーって言うてんだろ！」

みんな、一斉に男5に注目。

男5「つーかさ、お前、何でやったの？」

女5「え」

男5「意味わかんねーわ。まじで」

女5「や、自分だつてやりにいったじゃん」

男5「やるわけねーじゃん。ギャグじゃん」

女5「え」

男5「高度なギャグだよ。わかんなかった？」

女5「ごめん。わかんなかった」

男5「わかんねーんだ。じゃあ、いいよ。いいよ」

女5「うん…」

男5「おまえさ、もしかして、俺とのセックスが不満なの？そういうこと？」

女5「違う違う。」

男5「だったら、何でやったんだよ？」

女5「いや、かっこよくなりたかったから」

男5「ああ…そうだな」

女5「…」

男5「じゃあさ、じゃあさ、俺、あのコとやるとこだったじゃん。そんな時どう思った？」

女5「えー、頑張つて来てつて思った」

男5「他は？」

女5「おとなしそうな人だなんて」

男5「それ、あのコのことじゃん。お前の気持ち、聞いてんだけど」

女5「や、でも、私、そんな時それしか考えてなかったから」

男5「は？そんだけしか考えなかったの？」

女5「や、疲れてたつていうのもあるし…」

男5「あ、そ。わかった。わかった…」

女5「や…」

男5「0点！おまえ！」

女5「…」

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女5「…」

男5、煙草に火をつけて：

女5「一旦時間おいて考えてもいいですか？」

男5「おー。よく考えろよ」

女5「…」

男5「…」

女5「帰りたいんだけど…」

男5「じゃ、着替えろよ」

女5「うん」

男5「早くしろよ」

女、その場で着替え出す。

男5「おい！何やってんの！おまえ」

女5「帰るから。着替えようと思つて」

男5「お前ここで着替えたら、他の男にお前の裸見られるのね。俺、どうすりやいいの？そういうことを考えるつて言つてんの」

女5「ごめん。私、向こうで着替えてくる」

男5「いや、おまえがいいと思つたんなら別いいんじゃないの」

女5「いや、私、向こうで着替える」

男5「どっちでもいいつて」

女5「いや、私、絶対、向こうで着替える」

男5「そうしたかつたら、そうすればいいんじゃないの」

女5「…」

女5、泣き出す。

女5「ごめんない…」

男5「泣いたのにうるたえて」ちよつと、ちよつと、ちよつと」

女5「私アホだから…本当ごめん」

男5「泣くなつて」

女5「ごめん」

男5「泣かないで」

女5「泣かないで」

男5「泣かないで」

<

女 5 「(泣いている)」
男 5 「ごめんごめんごめん」
女 5 「私、別れたくないんだけど」
男 5 「俺だって別れたくないよ」

男 5、女 5 を抱き締める

女 5 「本当にそう思ってる？」

男 5 「本当だつて。俺不器用だからさ、うまいこと言えねーからさ。つーか、お前が俺の性格、一番わかってんじゃない」。

女 5 「でも、私、やっちゃったよー」

男 5 「それ、もう言わないでよ。つーか、もういいから。大丈夫だから」

女 5 「でも…」

男 5 「そんなこと、気にしてもしょうがねーつて。大したことじゃねーつて」

女 5 「うん」

男 5 「忘れよ。な」

女 5 「忘れる」

男 5 「なかつたことにしよ」

女 5 「なかつたことにする」

男 5 「帰ろう」

女 5 「帰る」

男 5 「着替えてきな」

女 5 「着替えてくる」

男 5、女 5 のバスタオルが下がっているのを直して…

男 5 「見えちゃうから…」

女 5 「うん…」

女 5、急いでバスルームに入って行く。

男 5 「…」

男 5、お菓子を一口、口に入れ、みんなの視線を気にしながら、着替え出す。

着替える途中、タオルがはだけて、尻が丸見えになる。
一同、見ない振り。

その時、2階から、女 3 の喘ぎ声。

女 3 の声「あん。あん。あん…」

今までは違つて、感情のこもった喘ぎ声。

一同、上を見上げる。

音楽。

暗転。

【シーン7】

テロップ『AM4:45』

明転。

窓の外はうっすら明るくなっている。

中央のロールカーテンだけ閉まっている。

男1、女2、3、4、寝ている。

女3のいびきの音が聞こえる。

男2、カウンターのところで、電話している。

男2「(不機嫌に)まだ、飲み屋にいるんだけど…ほんとだつて…だから同僚だつて…え、本間つてやつなんだけど…や、おまえ、知らないよ。今、便所行つてるけど。(切れ気味で)つーか、しょーもねーんだよ。そいつ。愚痴ばっかでき。2度と飲みに行かぬーよ。ほんと帰りたいわ。まあ、とりあえず、ここ、5時までだから、それまでは頑張るわ。あ、ユウタ、幼稚園には送つて行くから。ほんとごめんね。はい。はい」

男1、女2、起きる。

男2、電話切り、ソファーに向かい…

男2「あ、おはようございます」

男1「おはようございます…本間です」

男2「(笑つて)聞いてたんすか」

男1「(笑う)」

女2「奥さんから」

男2「はい」

女2「なんか、切れてたね」

男2、煙草に火をつけて…

男2「や、こつちが不機嫌にしてたら、向こうが疑つても、何も言えなくなるじゃないですか？」

男1「やっぱ、ひでーわ。この人」
女2「とりあえず石鹸の匂いは消してったほうがいいですよ」

男2、煙草の煙を自分の体に吐いて…

男2「今、煙草で消してます」

男1、女2、笑う。

女3、激しいいびき。

男2「誰つすか。これ」

男2「(女3を指して)」

男2「(苦笑して)ああ…」

男1「あの…一つ聞いていいつすか？」

男2「あ、はい」

男1「奥さんとセックスするんすか？」

男2「しますよ…月1」

男1「ああ…」

男2「家族がいたつて、スケベなことはしたいじゃないつすか」

男1「そうつすよね。スケベなことはしたいつすよね」

男2「したいつすよ」

男1「俺、あれですよ、一日の80パーセントは、エッチなこと考えてますね。たまにですよ。エッチじゃないこと考えるの」

男2「俺、残りの20パーセントで働いてます」

女2「(笑う)」

男1「何なんでしょうね。ほんとに…」

男2「神のみぞ知るつて感じですよね」

男1「射精した後つて『おっぱい、いらねー』みたいになるじゃないつすか。また30分くらいしたらやりたくなるんすけど…」

男2「あ、はい」

男1「思つたんすよ…その射精の後の30分が永遠に続けば、俺、東大とかいけてたんじゃねーかなつて」

男2「(笑つて)間違いないつすね」
女2「(笑っている)」
男1「(女2に)女の人もスケベなことばっか考えてんの？」

女2「え、だから来てんじゃん」

男1「でも、普通のコはなかなかやらせてくれないじゃん」

女2「ああ、まあ人によるか」

男1「じゃあ、わかりやすいように、すぐやらしてくれるコは、バッチとかつけててよ。『私、すぐやらせます』って書いて」

男2「(笑つて)それ、いいつすね」

男3、バスルームから出てくる。

みんなと離れたところに座る。

男3「あのさ…」

男3「…」

男1「さっき、いかったの、ギャグだから」

男3「え」

男1「高度なギャグだから」

男2「ああ…さっきのカップル…」

男1「何だつたんだよな。あいつら」

男1、2、女2、笑う。

女2「あの…聞きたかつたんですけど…」

男3「あ、はい」

女2「さっき、上で何があつたんですか？」

男3「え」

女2「あんなんなつたのに、また、(女3を指して)やつてたから…」

男3「ああ…や、あの、上に行つたら彼女が泣いてまして、何となくそうなつて」

男1「だから、何でだよ」

男3「僕もよくわからないんですけど…」

女2「あ、私、わかるわ」

男 2 「え、何ですか？」
女 2 「多分、あれですよ。自分のことを好いてる男が、他の人とそうなっていると見て…何か、こう…自分の気持ちに気づいた…みたいなの…」
男 1 「意味わかんねー」
男 2 「わかんないっすね」
その時、女 3、激しいびき。
女 3 「(鼻息) がー！」
みんな、笑って…
男 2 「あ、返事してる」
女 4、もぞもぞと起き出す。
女 2 「(それを意識しながら、男 3 に) 連絡先とか聞いた方がいいんじゃない」
男 3 「…」
女 4、起きて…
男 1 「おはよう」
女 4 「おはよう」
男 1 「おはよう」
女 4 「(女 2 に) あの…」
女 2 「(女 4 を見て) …」
女 4 「さつきは、すみませんでした」
女 2 「え…(わざと明るく) あ、気にしてない。気にしてない」
女 4 「ああ…そうですか…」
女 2 「こっちこそ。ごめんね」
女 4 「あ、いえ…」
女 2 「…」
女 4 「(真摯に) あの…今日は、仲良くしてくれてほんとにありがとうございました…」

女 2 「(反応に困り) ああ…」
その時、2階から、女 1 の喘ぎ声が聞こえて来る。
男 2 「誰か、やってるんですか？」
男 1 「え、童貞と常連？」
女 2 「またやってんだ…」
女 3、起きる。
何かのほずみで、ロールカーテン、開く。
男 4、女 1 を凄い体位(駅弁とか)で攻めているのが見える。
男 1 「おー！」
男 2 「あいつ上達してんじゃないですか！」
男 3、女 3 が起きたのに気づいて、二人、目が合っ
て、軽く会釈。
男 3 「…」
女 3 「…」
女 1 の喘ぎ声、激しくなり…
女 1 「(思ったよりも可愛い喘ぎ声) あー！あー！」
男 4 「(たくましく) あー！あー！」
男 4、いく。
女 1 「(息荒く) はー。はー。はー。すごいわ。あんな。こんなの初めてだわ」
みんな、拍手して…
一 同 「おおー！」
男 4 「(照れて) …」

女 4、いきなり泣き出す。
女 2 「え、え、どうしたの？」
女 4 「(泣きながら) すみません、や、あの、今日、本当に楽しかったんで。もう終わっちゃうんだなーと思って」
一 同 「…」
女 4 「何、私、こんなところ来て、泣いてんだろ…」
女 2 「あのさ…じゃあ、日にち合わせて。また、みんな来ればよくない？」
男 2 「そうっすね。またこのメンバーで集まりましょうよ」
男 4、女 1、2階から降りて来て…
女 2 「(女 1 に) 今度いつ来ます？」
女 1 「私？…明日」
女 2 「ああ、そっか」
男 2 「あの…僕は平日の方が」
女 2 「私は水曜日以外なら」
男 4 「え、何の話ですか？」
男 2 「またこのメンバーで集まるうって話になっ
てて…」
男 4 「ああ…」
男 2 「え、いつなら来れます？」
男 4 「あ、僕はいつでも」
男 2 「(男 1、3 に) え、で」
男 1 「あ、いつでも大丈夫っす」
男 3 「(あまり気乗りしないが) あ、はい…僕
もいつでも」
女 2 「(女 3 に) え、いつなら大丈夫？」
女 3 「あ、平日なら」
女 4 「(泣きながら) 言ってくれたら合わせま
す」
女 2 「じゃあ…どうしよう…」
店員 2、従業員室から出て来る。

店員2「(さらっと) 5時になったんで終わりです」

一 同「…」

女1「ちよつとシャワー浴びていい?」

店員2「ああ…。え、誰とやったの?」

女1「(男4を指して)「これ」

店員2「あ、またやったんだ」

女1「すごいよ。この人。まじテクニシャンだからね」

男4「(照れて)「…」

店員2「(男4に)「シャワー浴びます?」

男4「あ、大丈夫です…」

女1、バスルームに入る。

店員2「じゃあ、みなさん、帰る準備してもらって。先に女の子帰します。で、しばらくしてから男が帰るって感じで。一応、ストーカー対策なんでお願ひします」

一 同「…」

店員2「あ、着替えちゃって下さい」

みんな、のそのそと立ち上がり、着替える準備。

店員2、部屋の電気を消して、カーテンを開ける。眩しい朝日が部屋に差し込む。

さっきの光景とは打って変わって、現実感のある部屋に変わる。

店員2、テレビをつける。

朝のニュース。

みんな、朝日を浴び、かつたるそうに着替えを始める。

女達は恥ずかしそうに着替えている。

店員2「え、何、恥ずかしがってるの?」

女2「いや」

店員2「さんさんいろんなとこ見られてんじやないっすか」

女2「(苦笑い)」

店員2、部屋の掃除をしている。

男2「(店員2に)「あ、何か、上、ゴミ箱なかつたつすよ」

店員2「え、使ったゴムとかどうしたんすか?」

男2「すみません。そこら辺に置いておきました」

店員2「まじつすか。かたすの俺なんすよ」

男2「…すみません」

男1、2、女2、4の私服を見て…

女4「どうしたんですか?」

男1「いや。そんな服着てたんすね」

女4「ああ、はい」

女2「裸の方が見られてる時間が長いって…やばいよね」

男2「裸族つすね」

女2「(苦笑い)「裸族…」

女3、着替え終わり、何かを探している。

店員2「どうしたの?」

女3「いや、携帯…」

店員2、テーブルの上に置いてあった携帯を指して…

店員2「これじゃねーの」

男3「あ、それ、僕のです」

店員2「ちよつと、借りていいっすか」

男3「あ、はい」

店員2、女3から、電話番号を聞いてかける。

女3のバックから着信音。

女3、バックを漁り、携帯を見つける。

店員2「あった?」

女3「(うなづいて)「すみません」

店員2、携帯を男3に返す。

男3、女3、携帯を見て…

男3「…」

女3「…」

みんな、着替え終わり、座る。

店員2、何かに気づいて…

店員2「あ、すみません。(男3と女3に)「履歴消してもらっていいですか?」

男3「女3「…」

店員2「さっき、かけちゃったんで。残ってるでしょ?」

男3「女3「…」

店員2「(女3に)「ごめん。消して」

女3「あ、はい…(履歴、消す)」

店員2、女3が履歴を消したのを確認して…

店員2「(男3に)「消した?」

男3「や…まだ…」

店員2「じゃあ、早く消して」

男3「…」

店員2「電話番号聞くのはNGだからさ…」

男3「や、別に僕が聞いたわけじゃ…」

店員2「てめーみてるのがストーカーになるからさ!とつとと消せよ!」

男3「…」

店員2「おら!」

男3、携帯を操作している。

店員2、それを見ていて…

店員2「おまえ、登録しようとしてない?」

店員2、男3から携帯を奪って確認する。

男 3 「(切れて) 消しましたよ!」

店員2、携帯を男3に返す。

店員2 「(他のみんなに) 番号聞いてない?大丈夫?」

みんな、うなづく。

気まずい間。

みんな、ぼーっとテレビを観ている。
テレビの音が部屋に響く。

店員2 「(女達に) え、帰んないの?」

女 2 「あ、いや…」

店員2 「え、もう1回やってく?」

女 4 「(苦笑い)」

女達、のろのろ立ち上がり…
名残惜しい気持ちを隠して、素っ気なく帰る。
去り際、女3、男3を見て…

男 3 「…」

女 3 「…」

店員2 「ありがとうございますー(男達に) もうちょっと待って下さいね」

男達、テレビを見ながらぼーっとする。

男 2 「今度、いつ集まることになったんですか?」

男 1 「いや、決めてないっすね」

男 2 「ああ…」

女1、バスルームから出てくる。

女 1 「みんな、帰ったの?」

店員2 「ああ」

女1、従業員室に行つて…

女 1 「帰るよ」

しばらくして店員1、眠そうに出て来る。
女1、ハンドバックを漁っている。

店員1 「どした?」

女 1 「部屋の鍵…:ない」

店員1 「まじで?」

女 1 「持つてる?」

店員1 「持つてねーよ。鞆の中、ねーの?」

女 1 「ないから言つてじゃん」

店員1、鞆の中を漁る。

女 1 「ほんと持つてない?」

店員1 「今日、俺の方が、先出たじゃん」

女 1 「ああ」

店員1、鞆の中から鍵を見つける。

店員1 「つーかあんだけど」

女 1 「え、どこにあったの?」

店員1 「いや、普通に入つてたけど」

女 1 「あ、ごめん。ごめん」

店員1 「つたく。首からぶら下げとけよ」

女 1 「ごめんね」

女1、今までとは打って変わって女らしい態度。
男達、その様子を見ている。

店員1、女1、去り際に…

店員1 「みなさん、今日は楽しみました?」

男達、軽くうなづく。

店員2 「あ、何か、(男4を指して) この人、あいつと3回くらいやったみたいっすよ」

女 1 「(照れて) やめてよ」

女1、玄関に去る。

店員1、残つて…

店員1 「(男4を見ている) …」

男 4 「あ、いや…」

店員1 「(笑顔で) 大丈夫でした?」

男 4 「え、あ、はい…」

店員1 「何かすみませんね…」

男 4 「あ、いえ…」

女1、戻つて来て…

女 1 「はやくいこーよ」

店員1 「ああ…(店員2に) じゃあ、後、かたしとけよ」

店員2 「あ、はい」

女1、店員1、去る。

店員2 「おつかれっしたー」

店員2、店員1が去った後、かたたるように煙草を取り出して吸う。

男 4 「え、え」

店員2 「ん?」

男 4 「大丈夫なんすか?」

店員2 「え、何が?」

男 4 「あ、いや…あの二人、つきあってるんすか?」

店員2 「(笑つて) ああ…しんなかった?」

男 4 「ああ…はい」

店員2 「…何かね…あの…店長、すげー借金して

て、この店流行らないとと超やばいらしいのね。で、結局、この店って男の客来ないと収益的にまじいじゃん。あいつもそれ知ってるから毎日来て手伝ってるっていう…まあ、そんな感じなのね」

男 4 「ああ…そうなんすか」

店員 2 「そう、そう」

男 4 「…」

間。

店員 2 「っていうのは、嘘ですよ」

男 4 「え」

店員 2 「信じたんすか？」

男 4 「や」

店員 2 「そんな、すげー奴なわけないじゃないっすか。あいつが」

男 4 「え、じゃあ、何で？」

店員 2 「ただやりたいだけっしょ」

男 4 「え、あの人はそれでいいんですか？」

店員 2 「頭おかしいんだよ。あの二人」

男 4 「(苦笑い) ああ…」

店員 2 「そんな意味ありげでかつけーこと、ここにはないっすよ…」

一 同 「…」

店員 2、「あ、もう帰っていいっすよ。時間経ったんで。(素っ気なく) ありがとっ」ぞいしました」

店員 2、2階に上がって行く。

一 同 「…」

しばらく、ぼーっとしていた男達、ゆっくりと立ち上がり…

音楽。

朝日を浴び、かったるように、玄関に向かう男達。

男 3、去り際、振り返り、部屋を見渡して…

男 3 「…」

男達、部屋を出て行く。

誰もいなくなった室内。

しばらくして、店員 2、精子の入った大量の使用

済みコンドームを持って、降りて来る。

精子は朝日を浴びて輝いている。

それをゴミ箱に捨てる。

店員 2、ふとテレビに目をやるとそこには可愛い

お天気お姉さんが映っている。

ぼーっとその映像を見る。

しばらくして、ズボンをおろし始める店員 2。

そのまま、離れたところにあるティッシュを取り

に行く。

お尻が突き出た情けない格好で、ティッシュを 2、

3枚、抜き取る。

暗転。

テロップ 『作・演出 三浦大輔』

音楽が流れたまま…客電がつく。

完